

# 「県民の体力・スポーツに関する調査」

～ 県民の体力・スポーツに関する実態の推移をとおして ～

生涯スポーツ推進室 末包 博

## 【テーマ設定の理由】

私たちを取り巻く社会情勢は、科学・情報技術の進展、自由時間の増大、少子高齢化など、大きく変化を続けています。それに伴い、精神的なストレスの増大や運動不足による生活習慣病の増加など、心と体の健康の保持、増進が重要な課題となってきました。

このような社会環境の変化のなかで運動やスポーツの果たす意義、役割を考えたとき、一人ひとりのニーズや期待に適切に応え、運動やスポーツ活動を継続的に実践できるようなスポーツ環境を整備することが、行政や関係団体等に求められてきています。

こうした中、総理府（現内閣府）はさまざまなスポーツ環境を整備するにあたり昭和54年よりおよそ3年おきに国民の体力・スポーツに関する意識調査を行なうために「体力・スポーツに関する世論調査」を実施し、平成12年に出されたスポーツ振興基本計画等の様々なスポーツ施策の参考としてきました。

本県でも平成13年度に国が実施している調査とほぼ同じ内容の「県民の体力・スポーツに関する実態調査」を実施し、スポーツ振興施策の基礎資料とするために県民の体力・スポーツに関する意識調査を実施しました。以来5年が経過する中で県民一人ひとりがそれぞれの興味・関心・目的さらには体力や年齢、技能に応じていつでも、どこでも、だれでも、いつまでも、運動やスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現のために、平成16年度に「スポーツのあるまち・くらしづくり」を基本理念とし、13年度の調査結果をふまえながら神奈川県スポーツ振興指針である「アクティブかながわ・スポーツビジョン」を策定し、2015年までに成人の週1回以上のスポーツ実施率を2人に1人（50パーセント）にする目標を掲げるなど、さまざまなスポーツ振興施策を展開しています。

そのような中で、現在の県民の健康・体力観、スポーツの実施率や体力・スポーツに関する実情を把握するため、前回調査と同規模の調査を実施しました。

そこで、本研究では今回と平成13年度に実施した調査項目の中で、県民の健康・体力観や運動・スポーツの実施状況、スポーツ施設や運動・スポーツクラブ、スポーツ振興についての意識や要望などの推移を比較し分析することにより、今後の地域に根ざした県民主体のスポーツ振興に向けた施策展開の基礎資料を得ることを目的に本テーマを設定しました。

## 【目的】

平成13年度の県民の体力・スポーツに関する調査と今年度の調査を比較分析し県民の体力・スポーツの意識や実態の推移を探ることにより、今後の本県における生涯スポーツ振興における施策展開の基礎資料を得る。

## 【研究の内容及び方法】

### 1 研究期間

平成18年4月1日～平成19年3月31日

### 2 研究の方法

- (1) 文献研究
- (2) 資料、調査項目等の検討
- (3) 資料収集
- (4) 質問紙法によるアンケート調査
- (5) 集計・処理
- (6) 結果の分析・比較及び考察や課題等の検討

### 3 研究の内容

アンケート調査結果及び分析による県民の体力やスポーツに関する実態の推移

### 4 「県民の体力・スポーツに関する調査」について

この調査は、県スポーツ課と共同でおこなった。

平成 18 年度調査

#### (1) 調査対象者

神奈川県に居住する満 20 歳以上(平成 18 年 4 月 1 日現在)の男女個人 3,000 人

#### (2) 標本数

有効回収標本数：1,185 サンプル

有効回収率：39.5%

#### (3) 調査期間

平成 18 年 7 月～8 月

#### (4) 集計上の地域区分

**横浜地区**：横浜市

**川崎地区**：川崎市

**横須賀・三浦地区**：横須賀市・鎌倉市・逗子市・三浦市・葉山町

**湘南地区**：平塚市・藤沢市・茅ヶ崎市・秦野市・伊勢原市・寒川町・大磯町・二宮町

**西湘地区**：小田原市・箱根町・真鶴町・湯河原町

**県央地区**：厚木市・大和市・海老名市・座間市・綾瀬市・愛川町・清川村

**足柄上地区**：南足柄市・中井町・大井町・松田町・山北町・開成町

**県北地区**：相模原市・城山町・津久井町・相模湖町・藤野町

平成 13 年度調査

#### (1) 調査対象者

神奈川県に居住する満 20 歳以上(平成 13 年 4 月 1 日現在)の男女個人 3,000 人

#### (2) 標本数

有効回収標本数：1,209 サンプル

有効回収率：40.3%

#### (3) 調査期間

平成 13 年 8 月～9 月

#### (4) 集計上の地域区分

**横浜地区**：横浜市

**川崎地区**：川崎市

**横須賀・三浦地区**：横須賀市・鎌倉市・逗子市・三浦市・葉山町

**湘南地区**：平塚市・藤沢市・茅ヶ崎市・秦野市・伊勢原市・寒川町・大磯町・二宮町

**西湘地区**：小田原市・箱根町・真鶴町・湯河原町

**県央地区**：相模原市・厚木市・大和市・海老名市・座間市・綾瀬市・愛川町・清川村

**足柄上地区**：南足柄市・中井町・大井町・松田町・山北町・開成町

**県北地区**：城山町・津久井町・相模湖町・藤野町

【結果及び考察】

1 健康・体力観について  
(1) 普段の健康

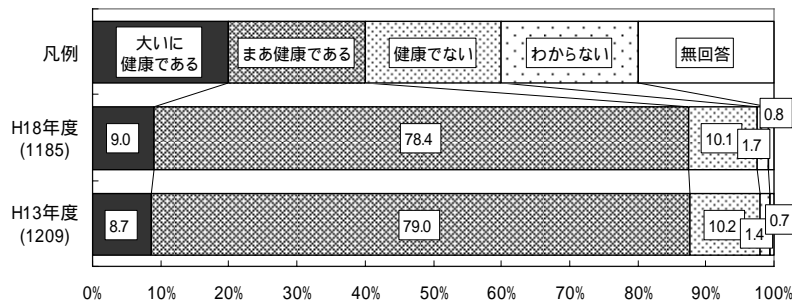


図 1-1 普段の健康観

普段の健康観（図 1-1）については、全体の 8 割以上が健康であると感じ、今回調査と前回調査で、ほぼ同様の結果となっている。

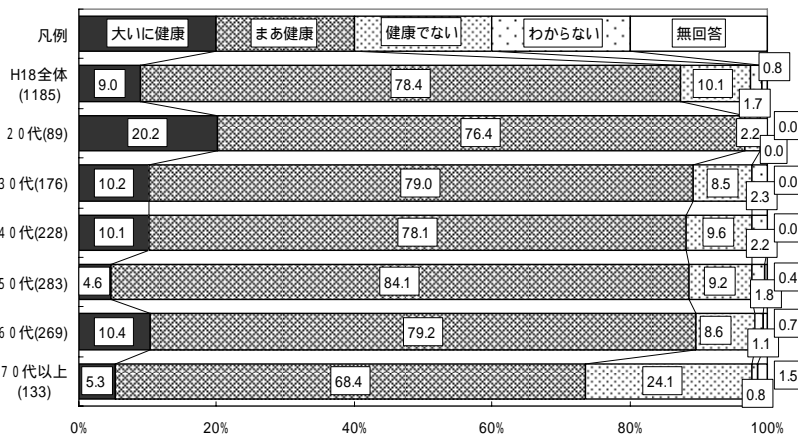


図 1-2 普段の健康観（平成 18 年度：年代別）

年代別（図 1-2、3）にみていくと、「大いに健康」が 50代と 70代を除く全ての年代で増加し、特に 20代では 7.6ポイント増加している。しかし、50代では半減している。

また、70代で「健康でない」の回答が 20%を超える傾向は変わらない。

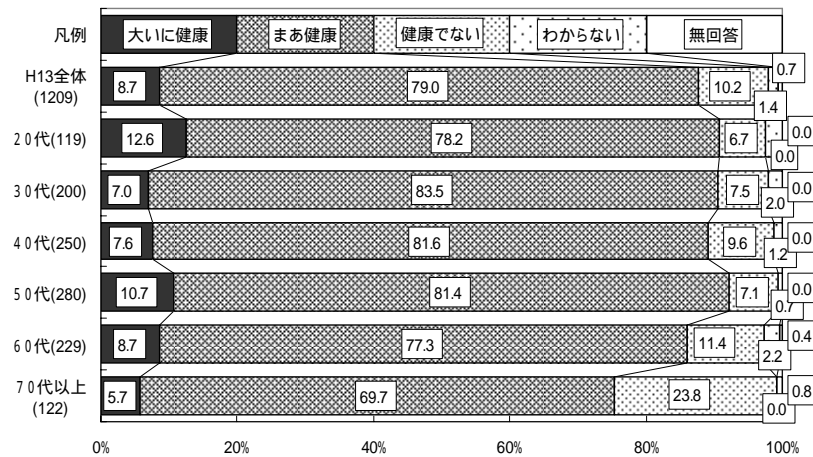


図 1-3 普段の健康観（平成 13 年度：年代別）

## (2) 普段の体力

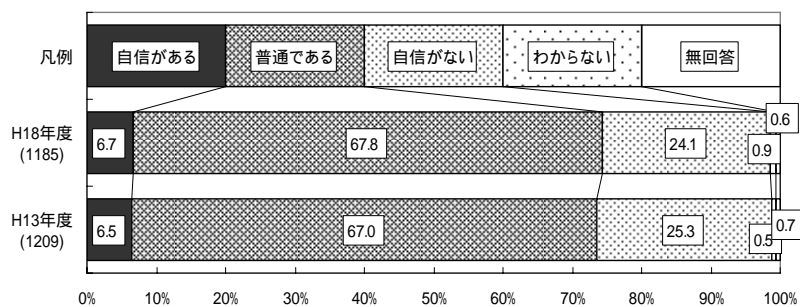


図 2-1 普段の体力

普段の体力(図 2-1)については、全体の3分の2(67.8%)が「普通である」と回答した。また4人に1人が「自信がない(24.1%)としており、前回調査と比較しても、大きな差は見られなかった。

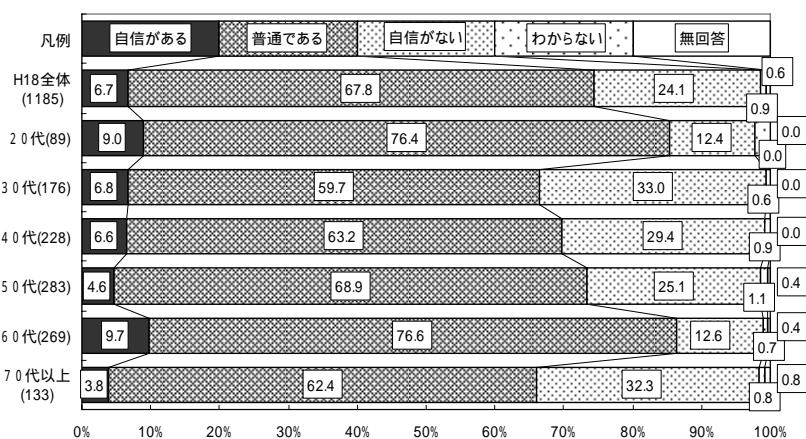


図 2-2 普段の体力(平成18年度:年代別)

年代別(図 2-2、3)にみていくと、20代で「体力に自信がない」への回答が36.1%から12.4%と約3分の1に減少し、60代でも18.3%から12.6%と約3分の2に減少している。他の年代では1~6ポイントの間でやや増加傾向が見られた。

なお、「自信がある」の項目で50代が8.9%から4.6%に半減している。

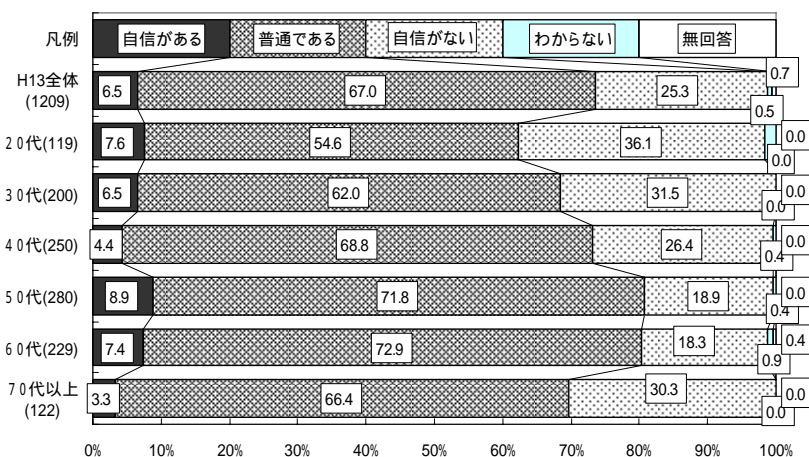


図 2-3 普段の体力(平成13年度:年代別)

### (3) 健康や体力への注意

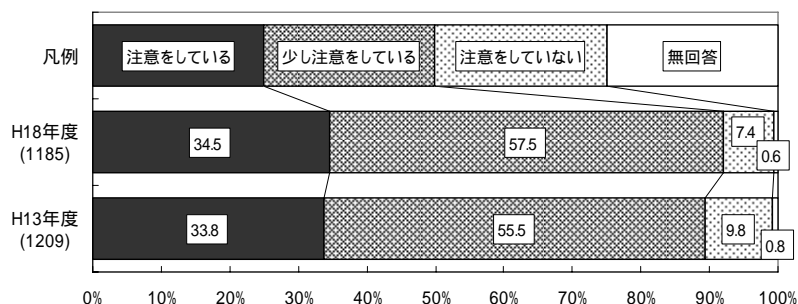


図 3-1 健康や体力への注意

普段の健康や体力への注意(図3-1)については、「少し注意している」が57.5%で、「注意をしている」の34.5%を合わせると全体の約90%が「注意をしている」であった。

前回調査と比較すると、「注意している」と「少し注意している」の合計で今回調査が2.7ポイント増加している。

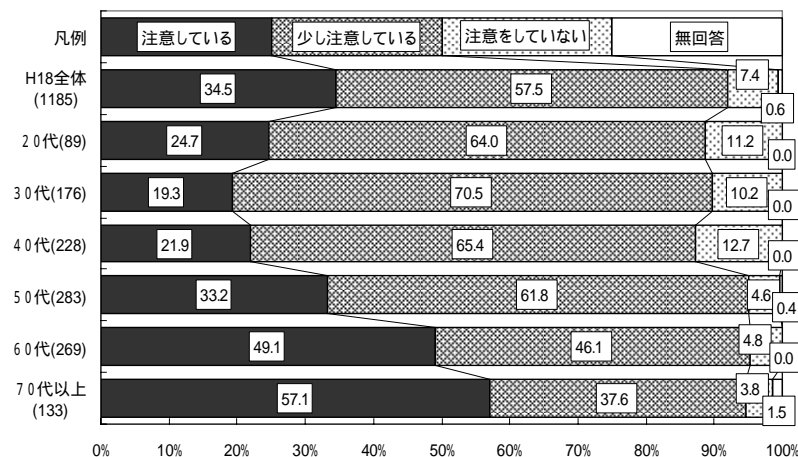


図 3-2 健康や体力への注意(平成18年度:年代別)

年代別(図3-2、3)にみていくと、「注意している」と「少し注意している」の合計で、20代・30代において今回調査が5ポイント以上増加していることがわかる。

また50代~70代以上については「注意している」が高い数値を示している傾向は変わっていない。

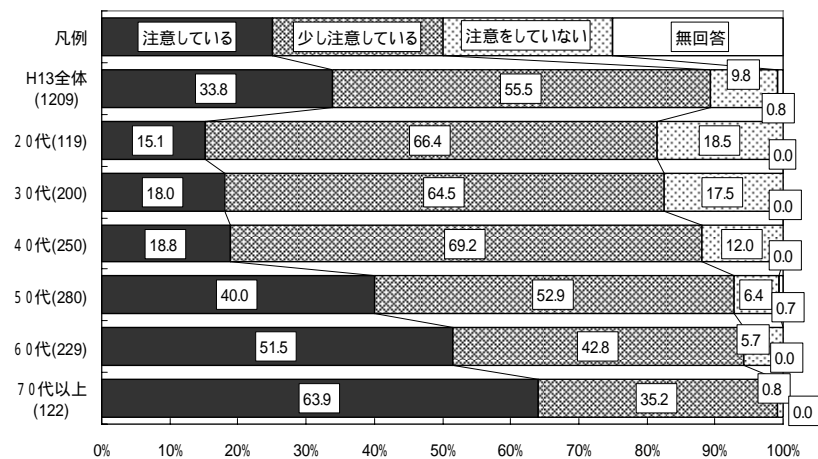


図 3-3 健康や体力への注意(平成13年度:年代別)

#### (4)健康・体力維持への留意点

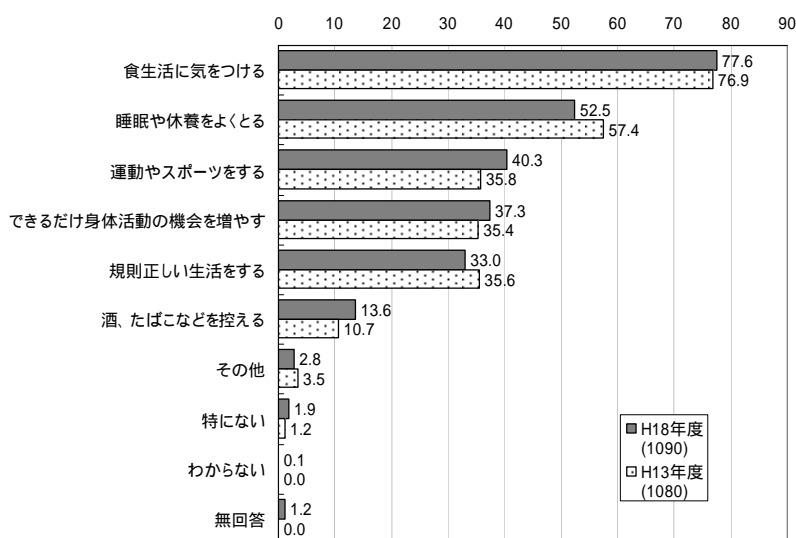


図 4-1 健康・体力維持への留意点

健康・体力維持への留意点（図4-1）については、「食生活に気をつける」が前回調査とほぼ同じ数値であり最も多い。その他の項目では、「運動やスポーツをする」（4.5ポイント増）と「できるだけ身体活動の機会を増やす」（1.9ポイント増）といった運動への意識については前回調査より増加し、また「酒、たばこなどを控える」についても2.9ポイント増加している。

なお、「睡眠や休養をよくとる」（4.9ポイント減）と「規則正しい生活をする」（2.6ポイント減）といった生活習慣の意識については前回調査より減少していた。

これら特徴のあった項目を年代別にみると、「食生活に気をつける」（図4-2）では、特に20代で13ポイント増加し、30代では10ポイント減少していた。また、今回調査では全ての年代で70%以上であった。

全体で増加傾向のあった、「運動やスポーツをする」（図4-3）では全年代で増加がみられ、特に60代70代以上の増加が顕著であった。「できるだけ身体活動の機会を増やす」（図4-4）では20代で5ポイントの減少がみられたものの30代で8.7ポイントの増加がみられ、他の年代でも同じく、わずかな増加がみられた。

また、全体で減少傾向のあった「睡眠や休養をよくとる」（図4-5）では、20代・40代・50代で5ポイント以上の減少がみられ、特に40代では14ポイントの減少がみられた。「規則正しい生活をする」（図4-6）では20代以外の年代で現状維持か減少する傾向が見られた。

なお、嗜好品である「酒、たばこを控える」（図4-7）では20代～50代で前回調査を上回り、60代・70代以上では下回る傾向が見られた。

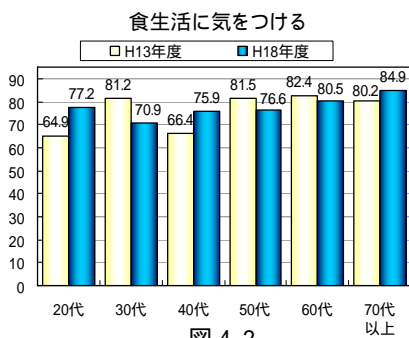


図 4-2

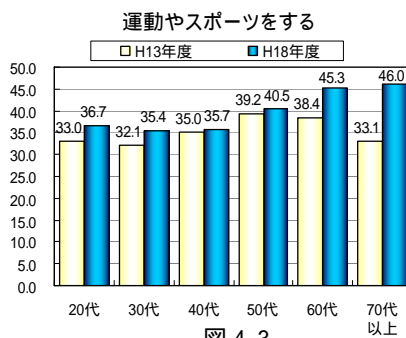


図 4-3

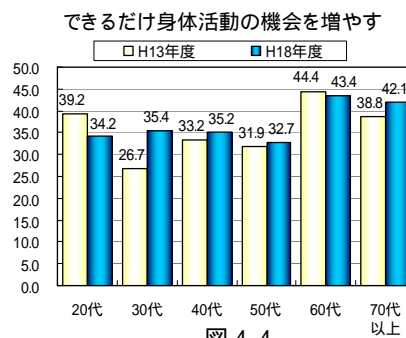


図 4-4

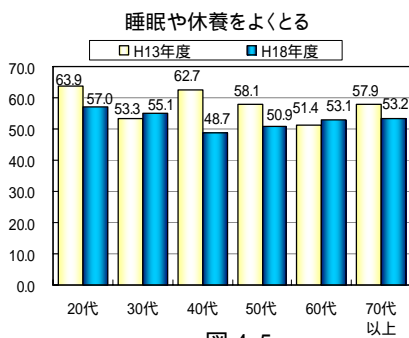


図 4-5

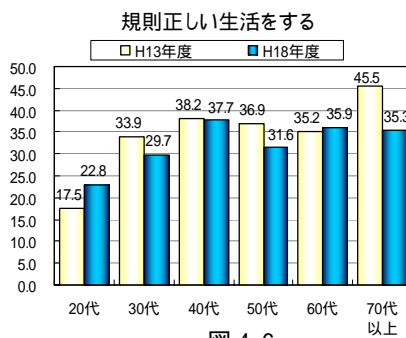


図 4-6

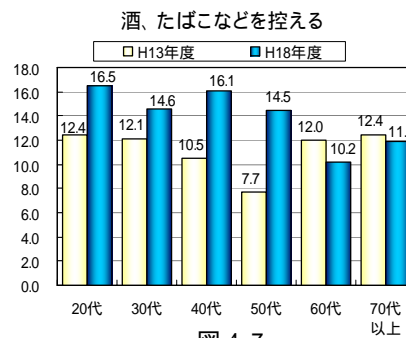


図 4-7

以上のことから健康観・体力観に関しては、前回・今回調査とも全体の80%以上が健康であると感じ、70%以上が体力も普通、若しくは自信があるとして、前回調査と比較して全体としては大きな変化はみられなかった。

健康への意識として、健康や体力への注意については、前回調査より2.7ポイントの増加が見られ、特に20代・30代において「注意している」「少し注意している」の合計で前回調査を5ポイント以上上回っていることから、健康への意識が若い世代でも高まってきているものと考えられる。

また、普段の健康や体力の維持増進のために心掛けていることとして「食生活に気をつける」「睡眠や休養をとる」の2項目が上位で変わらないものの、「睡眠や休養をとる」「規則正しい生活をする」といった生活習慣に対する意識が前回調査を下回り、「運動やスポーツをする」「身体活動の機会を増やす」などといった運動習慣の意識が前回調査を上回っていることから、健康を維持増進していくための方法として、運動習慣といった積極的活動への意識が高まっているものと考えられる。

「食生活に気をつける」「睡眠や休養をとる」「規則正しい生活をする」を『生活習慣の意識』とし、「運動やスポーツをする」「身体活動の機会を増やす」を『運動習慣の意識』として、年代別に2つのグループを比較してみると、20代では生活習慣への意識が前回調査を上回る傾向がみられたが、他の30代～70代以上では生活習慣の意識より運動習慣の意識が前回調査を上回る傾向が見られた。

なお、嗜好品である「酒、たばこを控える」では20代～50代のいわゆる現役世代で前回調査を上回り、60代・70代以上では下回る傾向が見られた。これは禁煙活動が様々なところで行われ、特に働く世代の多い20代～50代で仕事場や家庭などといった身近な場所で、分煙や禁煙といった活動が広がったことと、健康への阻害認識が拡大したためと思われる。

## 2 運動・スポーツの実施状況について

### (1) 1年間に行った運動・スポーツの日数

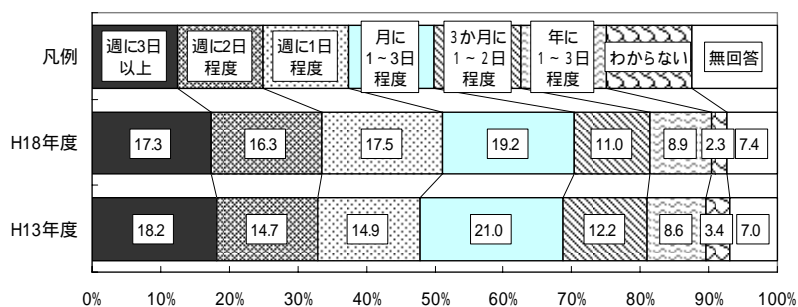


図5-1 1年間に行った運動・スポーツの日数

1年間で運動・スポーツを行った人で30分以上運動した日数(図5-1)については、「月に1～3回程度」が19.2%で最も多いものの、特徴的な傾向は見られない。

前回調査と比較すると、「週に1日程度」が2.6ポイント、及び「週に2日程度」が1.6ポイントそれぞれやや増加している。「週に1日程度～週に3日以上」(以下「週に1回以上」という)をみると3.3ポイントやや増加している。

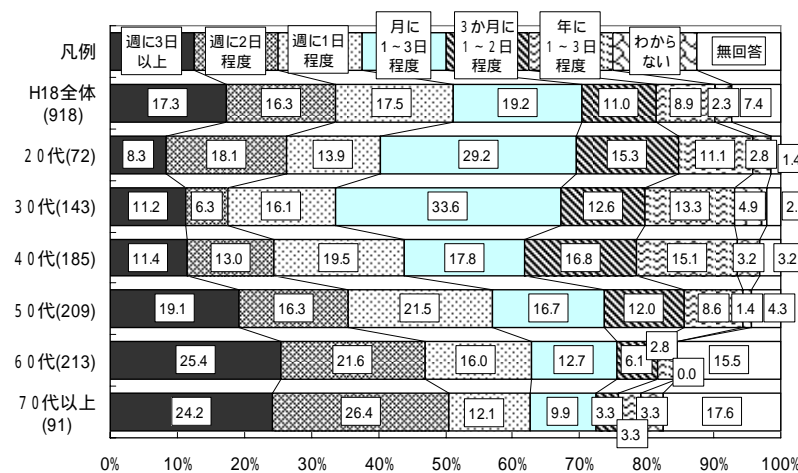


図5-2 1年間に行った運動・スポーツの日数(平成18年度:年代別)

年代別(図5-2、3)にみていくと、「週に3日以上」といった運動頻度の高いものは20代、30代をのぞいて減少している傾向が見られた。ただ、「週に1日程度～週に3日以上」(週に1回以上)は30代をのぞいた年代でやや増加もしくは変化がみられなかった。また、50代以上では

60%前後あるものの、20代～40代では50%を下回る傾向は変わっていない。

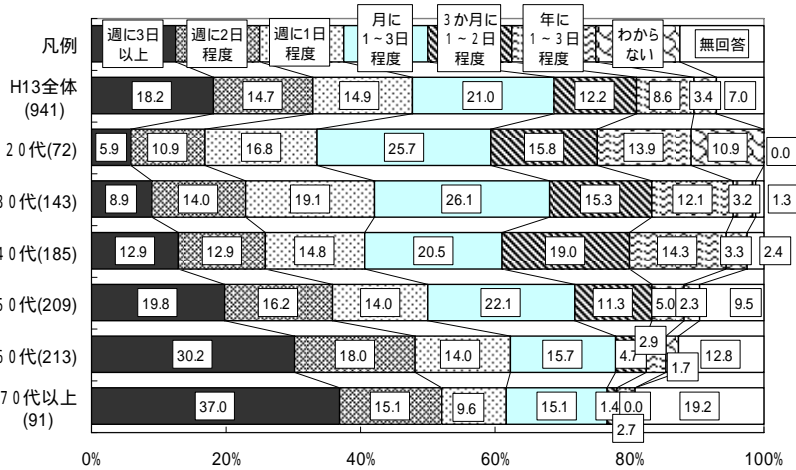


図 5-3 1年間に行った運動・スポーツの日数(平成13年度:年代別)

1年間で30分以上運動しなかった人を加えて、全体を見たところ(図5-4)、「週に1日程度～週に3日以上」(週に1回以上)は37.1%から39.7%と2.6ポイント増加していることが分かった。

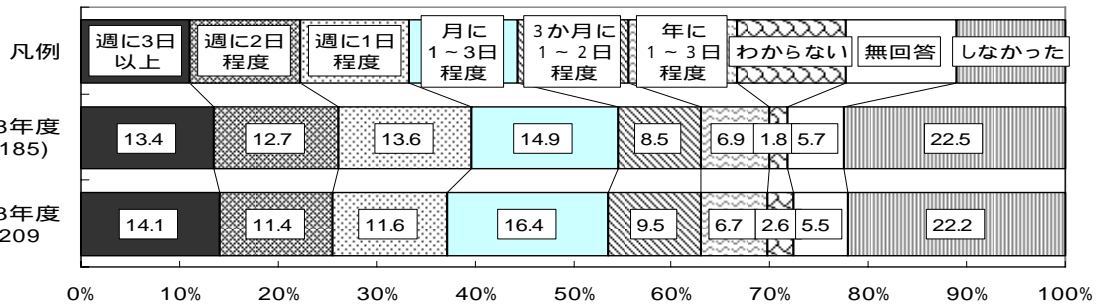


図 5-4 1年間に行った運動・スポーツの日数(実施しなかった人を含む)

(2) 運動・スポーツをした理由

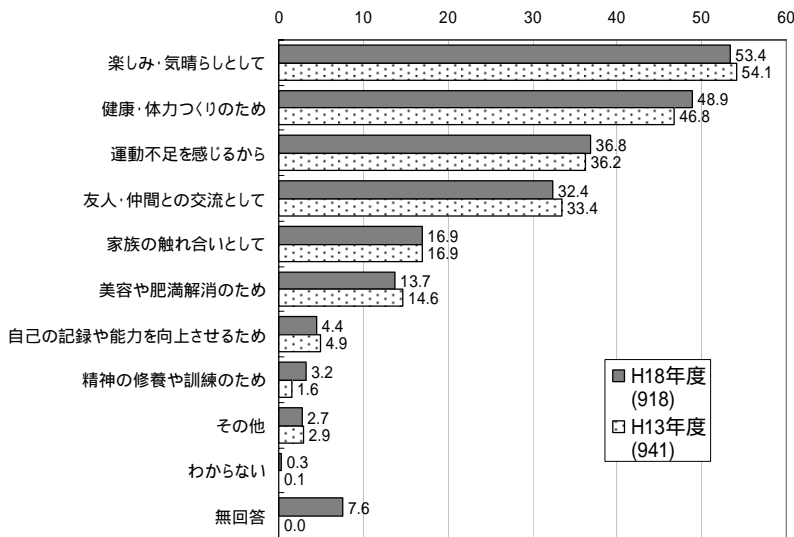


図 6-1 運動・スポーツをした理由

この1年間で運動やスポーツをした理由(図6-1)については、前回調査と同様、「楽しみや気晴らしとして」が最も多く、「健康・体力づくりのため」「運動不足を感じるから」が続いている。各項目の割合は前回調査と大きな変化はないが、「健康・体力づくりのため」が前回調査を2.1ポイントと僅かに増加している。

これら特徴のあった項目を年代別にみると、「楽しみや気晴らしとして」(図6-2)では20代・30代・50代・70代以上で増加し、40代・60代で減少傾向が見られ、特に40代で10ポイント以上の減少がみられた。

「健康・体力づくりのため」(図6-3)では30代で6ポイントの減少がみられたが、20代で8.6ポイント、50代で5ポイントの増加がみられ、他の年代では大きな変化はみられなかった。

「運動不足を感じるから」(図6-4)では40代・50代・70代以上で3～9ポイント増加し、20代・30代・60代で3～6ポイントの減少がみられた。



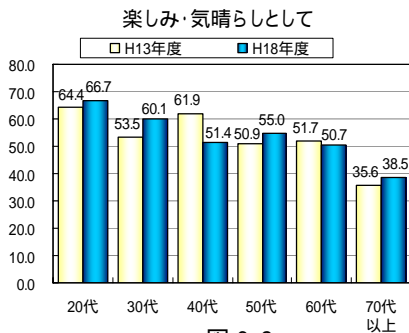


図 6-2

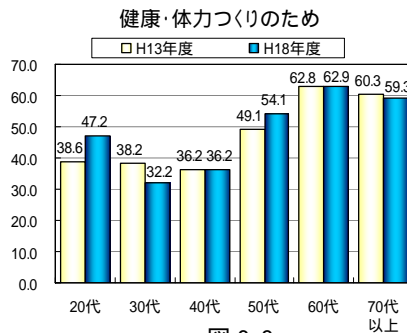


図 6-3

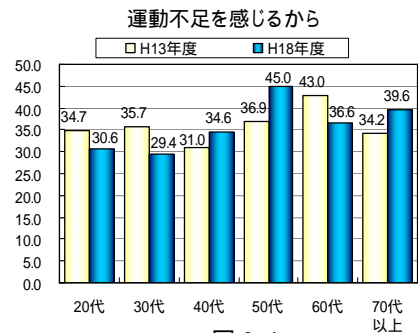


図 6-4

### (3) 運動・スポーツをしなかった理由

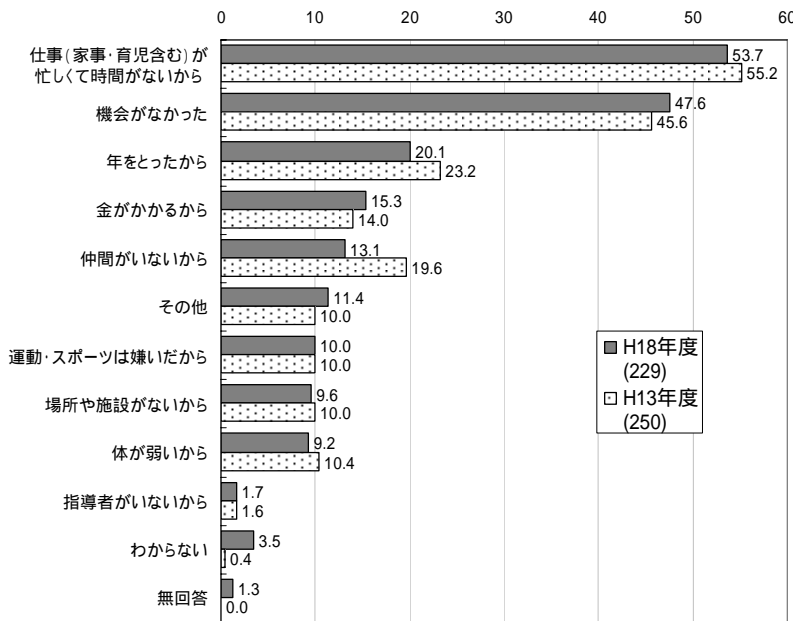


図 7-1 運動・スポーツをしなかった理由

この1年間で運動やスポーツをしなかった理由(図7-1)については、前回調査と同様に「仕事(家事・育児含む)が忙しくて時間がないから」が最も多く、「機会がなかった」が続いている。その他大きな変化は見られないが、「仲間がないから」が前回調査から6.5ポイント減少し、「年をとったから」も3.1ポイント減少している。

これら特徴のあった項目を年代別にみると、「仕事(家事・育児含む)が忙しくて時間がないから」(図7-2)では20代~40代で減少し、特に20代と40代では20ポイント以上減少している。50代~70代以上では増加傾向が見られ60代は17ポイント増加している。

「機会がなかった」(図7-3)では20代~40代で7~10ポイント増加し70代以上で4ポイント増加している。50代・60代ではわずかに減少している。

「仲間がないから」(図7-4)では40代で約10ポイント増加し、70歳以上では変化がみられなかった。他の年代では減少し30代・50代・60代では10ポイント以上の大幅な減少がみられた。

「年をとったから」(図7-5)では60代で3.6ポイント増加しているものの、他の年代では減少もしくは0%となっている。特に70歳以上では10ポイント以上の大幅な減少がみられた

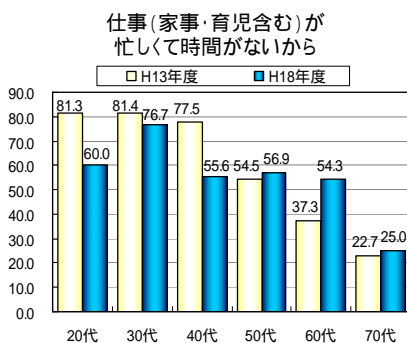


図 7-2

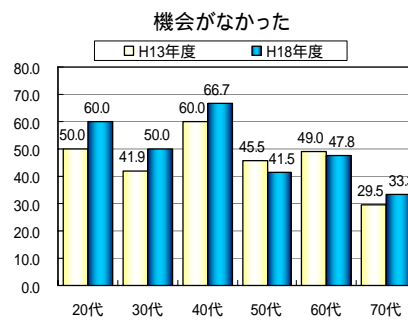


図 7-3

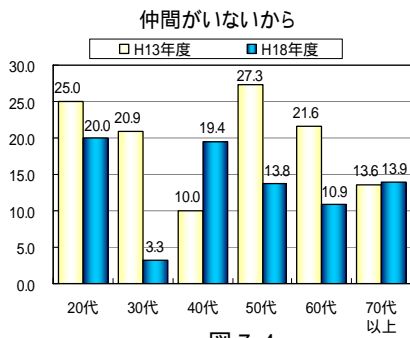


図 7-4

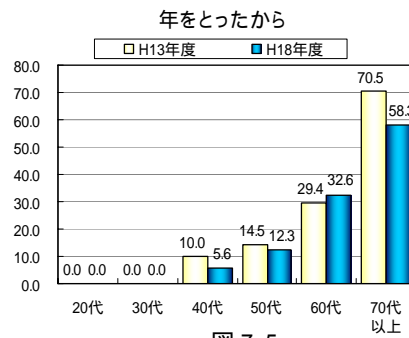


図 7-5

#### (4) 今後(も)行いたい運動・スポーツ

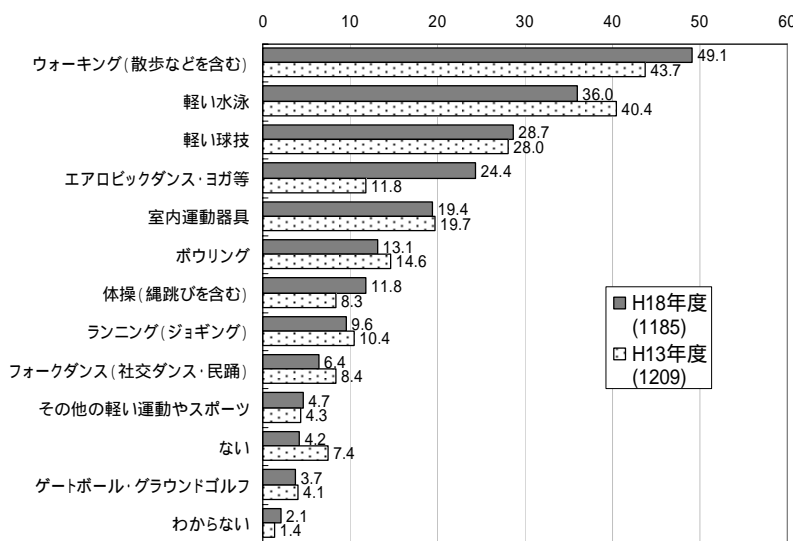


図 8-1 比較的軽いスポーツ

#### ア 比較的軽いスポーツ

今後(も)行いたい(行ってみたい)運動やスポーツのうち、比較的軽いスポーツ(図 8-1)については、「ウォーキング」が前回調査と同様トップであり、今回調査が前回調査を 5.4 ポイント上回った。また、「エアロビックダンス・ヨガ等」は前回調査を 12.6 ポイントと大きく上回っていることが分かった。その他大きな変化は見られないが、「軽い水泳」は前回調査から 4.4 ポイント減少している。

これら特徴のあった項目を年代別にみると、「ウォーキング」(図 8-2)では 20代 30代では変化はほとんどなく、40代で 3.6 ポイント減少している。50代~70代以上では増加傾向が見られた。特に 70代以上では 19.6 ポイントと大幅に増加している。また、「体操(縄跳び含む)」(図 8-3)においても同じような傾向が見られた。

全体で前回調査を大きく上回っている「エアロビックダンス・ヨガ等」(図 8-4)は全ての年代で前回調査を上回り、特に 30代~60代では 10 ポイント以上と大きく増加している。

「軽い水泳」(図 8-5)は 30代・60代で 8~9 ポイント減少し、他の年代にはほとんど変化がみられなかった。

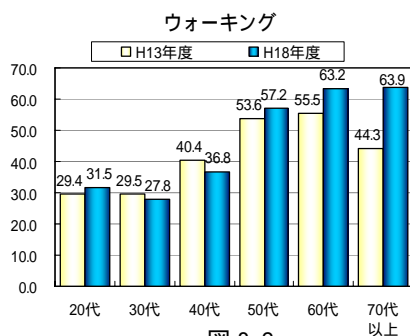


図 8-2

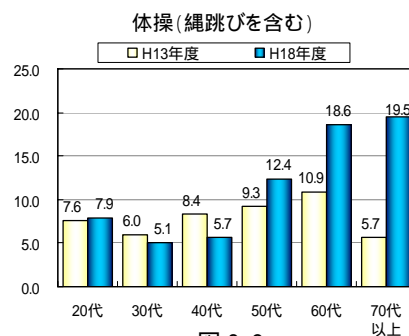


図 8-3

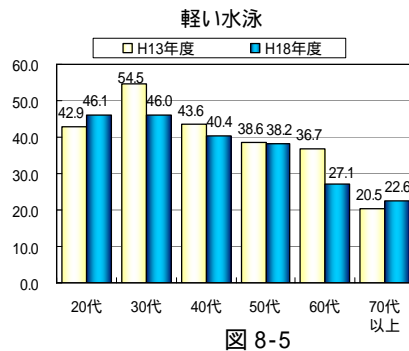
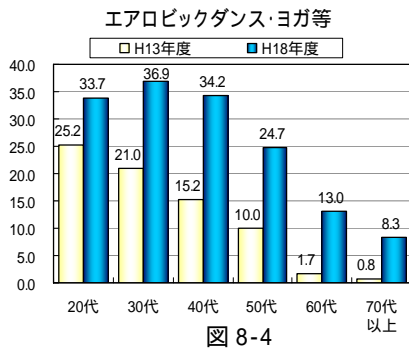


図 8-4

図 8-5

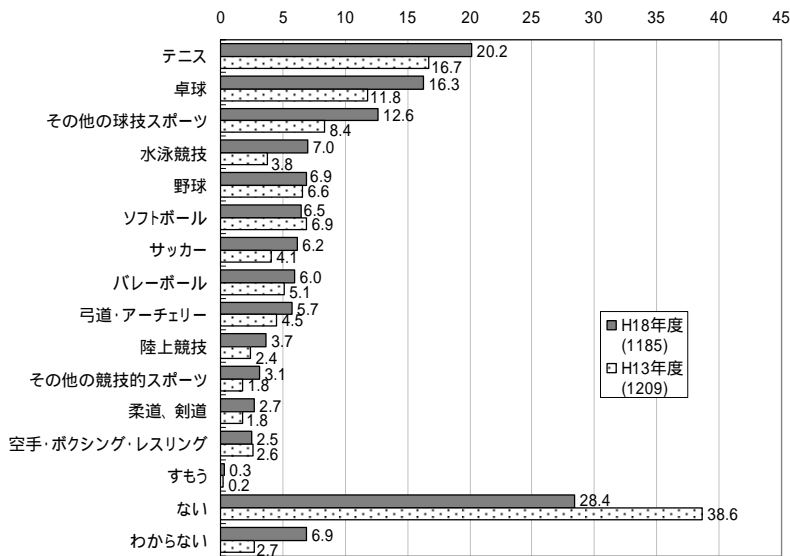


図 9-1 比較的軽いスポーツ

## イ 競技的スポーツ

競技的スポーツの実施意向(図9-1)については、「テニス」が最も高く、「卓球」が続いている。前回調査と比較すると、「テニス」(3.5ポイント増)、「卓球」(4.5ポイント増)、「水泳競技」(3.2ポイント増)、「その他の球技スポーツ(バスケットボール・バドミントンなど)」(4.2ポイント増)が増加し、「ない」の回答が10.2ポイント大きく減少している。

これら特徴のあった項目を年代別にみると、「テニス」(図9-2)「卓球」(図9-3)では40代～70代以上で前回調査を上回る傾向がみられ、20代30代では下回る傾向が見られた。特に「テニス」では40代で7ポイント、50代で11.6ポイント、「卓球」では40代～70代以上で6ポイント以上増加している。

「水泳競技」(図9-4)「その他の球技スポーツ」(図9-5)では全ての年代で1～6ポイントの間で前回調査を上回る傾向が見られた。「水泳競技」では20代・50代・60代で5ポイント以上の増加がみられ、「その他の球技スポーツ(バスケットボール・バドミントンなど)」では20代・40代・50代で6ポイント以上の増加がみられた。

「ない」(図9-6)は全てで前回調査を下回り、20代・50代・60代・70代以上で12ポイント以上大きく下回っている

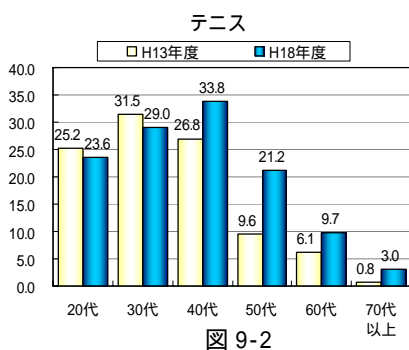


図 9-2

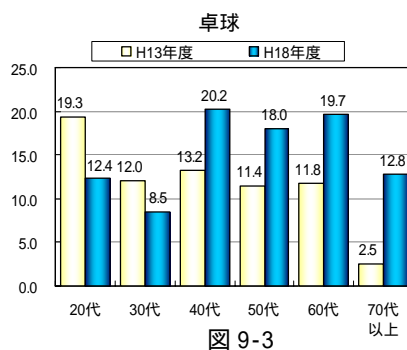


図 9-3

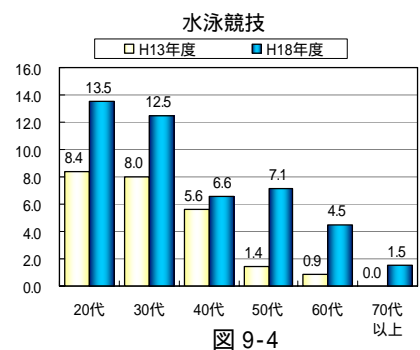


図 9-4

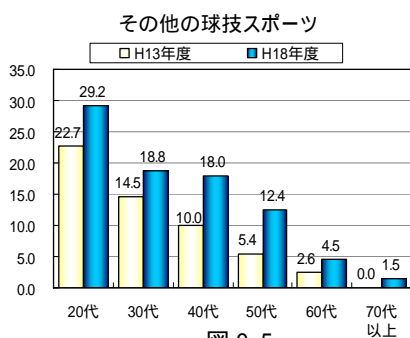


図 9-5

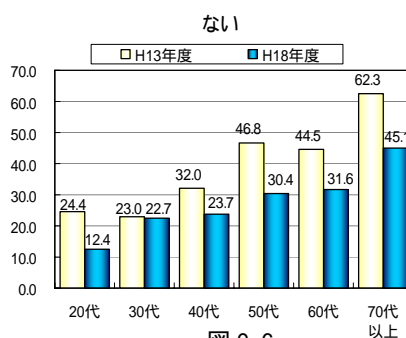


図 9-6

以上の結果から、「週に1回以上運動を行った人」は39.7%で前回調査と比較して2.6ポイントとやや増加していることが分かった。年代別にみると、30代で8.4ポイント減少しているが、他の年代では1~7ポイント増加していることが分かった。また、全国の調査で「週に1回以上運動を行った人」は44.4%であり、それより4.7ポイント下回っていることが分かった。

運動やスポーツをした理由としては、「健康・体力づくりのため」「運動不足を感じるから」で前回調査より増加しているのに対し、最も高い数値を示している「楽しみ・気晴らしとして」は減少する傾向が見られた。このことから前回調査と傾向は変わらないものの、少しずつではあるが健康や体力維持のために運動・スポーツを行うという意識を持つ人が増える傾向にあると考えられる。

運動やスポーツをしなかった理由としては、前回調査と同様に「仕事（家事・育児含む）が忙しくて時間がないから」が最も高く、「機会がなかった」が続いている。年代別にみると、「仕事が忙しくて時間がないから」では前回調査で高い数値であった20代~40代では減少する傾向が見られ、20代・40代では20ポイント以上大きく下回る傾向が見られた。また60代で増加していることが分かった。近年60歳を過ぎても働く人が増えていることから、全体として仕事を持ちながら運動やスポーツを行うということが難しい状況は変わっていないようである。

次に、「今後(も)行いたい運動スポーツ」の「比較的軽いスポーツ種目」を前回調査と比較した場合、「エアロビクス・ヨガ等」が前回調査の11.8%から24.4%と約2倍になっており、また体操も8.3%から11.8%と約1.4倍になっている。年代別にみると、「エアロビクス・ヨガ等」では全ての年代で大きく増加し、「ウォーキング」や「体操」などでは50代以上で増加する傾向が分かった。このことは、これらの種目がダイエットや健康・体力づくり等に有効であることが様々なところで取り上げられる機会が増えたことや、比較的気軽に一人でも簡単にできる運動として、現在のニーズにマッチしたことによるものと推察される。

また、「競技的スポーツ」の実施意向をみた場合、ほとんどの種目で前回調査を上回る傾向がみられ「テニス」「卓球」などにおいては、40代以上の年代で増加する傾向が見られた。全体的に各年代において競技的スポーツの実施意向が高まっている傾向が伺え、それぞれの種目を実施しているだけで満足していた人たちが、自分の力を試す試合などの場を求めていると推察される。

### 3 スポーツ施設について

#### (1) スポーツ施設設置状況

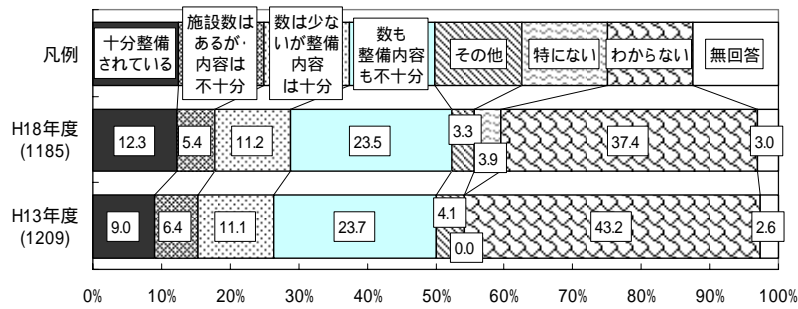


図 10 スポーツ施設設置状況

市町村立のスポーツ施設（体育館・プール・テニスコートなど）の設置状況（図 10）については、「施設の数も整備内容も不十分」が 23.5%、「十分整備されている」が 12.3%、「施設の数が少ないが、整備内容は十分」が 11.2%であった。

前回調査と比較すると、「十分整備されている」が 3.3ポイント増加している。

#### (2) 公共スポーツ施設への要望

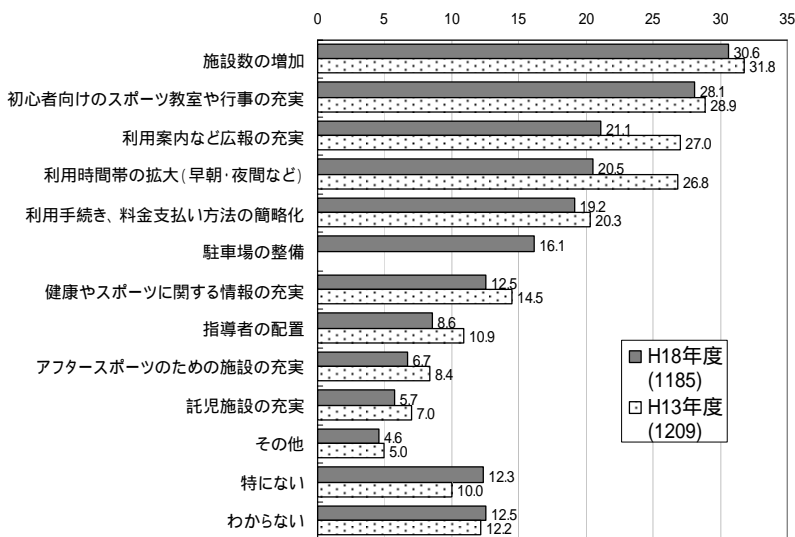


図 11 公共スポーツ施設への要望

公共スポーツ施設への要望（図 11）については、「施設数の増加」が前回調査と同様に約 30%で最も多く、「初心者向けのスポーツ教室や行事の充実」が約 28%で続いている。また、今回の調査において前回調査項目に「駐車場の整備」の選択肢を追加した分、全体的に数値が減少しているなかで、「利用案内など広報の充実」(5.9ポイント減)と「利用時間帯の拡大」(6.3ポイント減)が大きく減少していることが分かる。

#### (3) 学校の体育施設利用状況

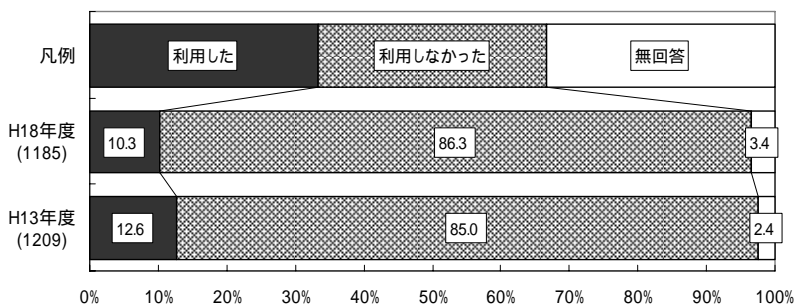
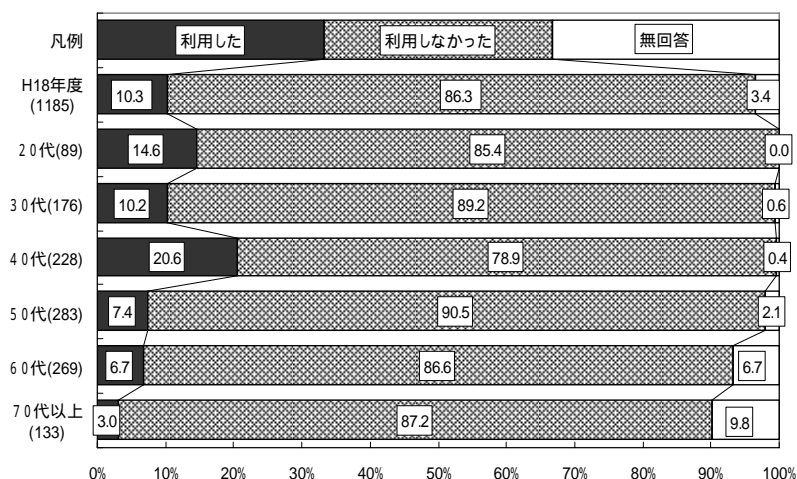


図 12-1 学校の体育施設利用状況

この1年間の、学校の体育施設利用状況（図 12-1）については、「利用した」は 10.3%、「利用しなかった」は 86.3%であった。

前回調査と比較すると、「利用した」の割合が若干減少(2.3ポイント)していることが分かる。



年代別（図 12- 2、 3）にみていくと「利用した」は40代で4.6ポイント増加しているが、その他の年代で2～4ポイント減少している傾向が見られた。

図 12-2 学校の体育施設利用状況(平成 18 年度：年代別)

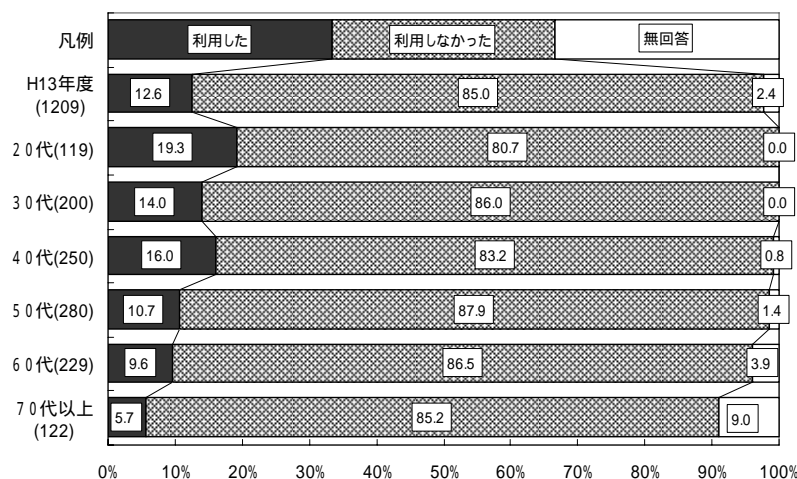


図 12-3 学校の体育施設利用状況(平成 13 年度：年代別)

#### (4) 学校の体育施設を利用しなかった理由

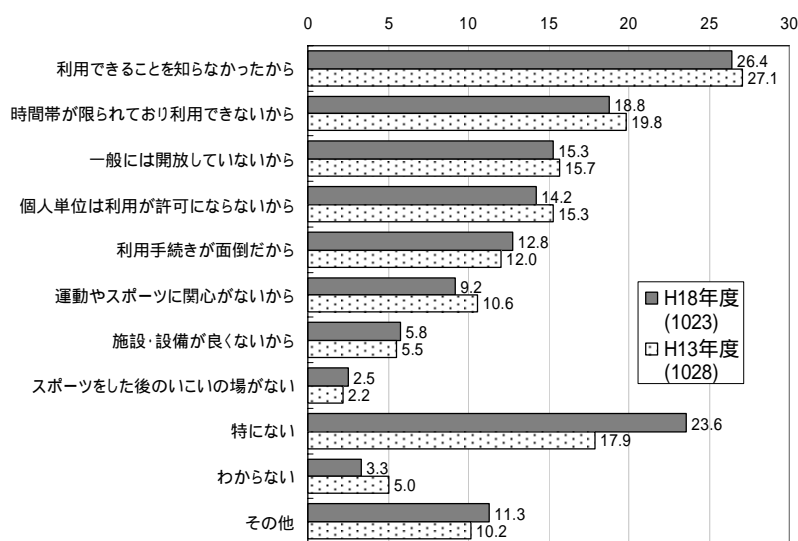


図 13-1 学校の体育施設を利用しなかった理由

この1年間に学校の体育施設を利用しなかった理由（図 13-1）については、「利用できることを知らなかったから」が26.4%で前回調査に引き続き最も多く、「時間帯が限られており利用できないから」が20%弱で続いている。前回調査と比較すると、減少傾向にある項目が多いものの、「利用手続きが面倒だから」「施設・設備が良くないから」が微増していることが分かる。「特になし」が前回調査から5.7ポイント増加している。

これら特徴のあった項目を年代別にみると、「利用できることを知らなかったから」(図13-2)では30代・60代で減少し、それ以外の年代ではやや増加する傾向が見られた。特に20代・30代で高い数値を示す傾向は変わっていない。

「時間帯が限られており利用できないから」(図13-3)では、30代・40代で前回調査を下回るが、その他の年代では前回調査を上回っている。

「利用手続きが面倒だから」(図13-4)では、40代以上で前回調査を上回り、20代・30代で前回調査を下回っている

「施設・設備がよくないから」(図13-5)では40代を除く全ての年代で増加傾向が見られた。

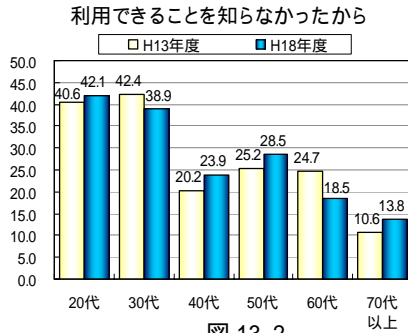


図 13-2

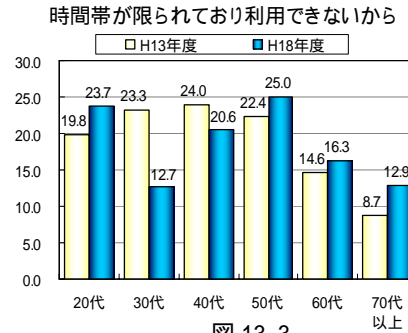


図 13-3

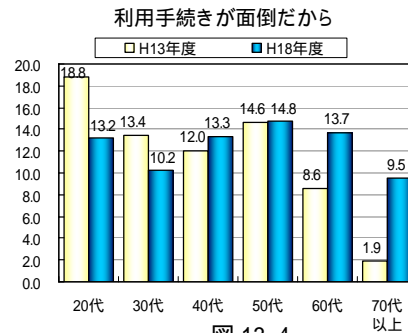


図 13-4

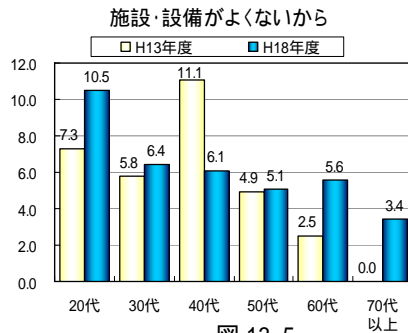


図 13-5

### (5) 今後設置を希望する公共スポーツ施設

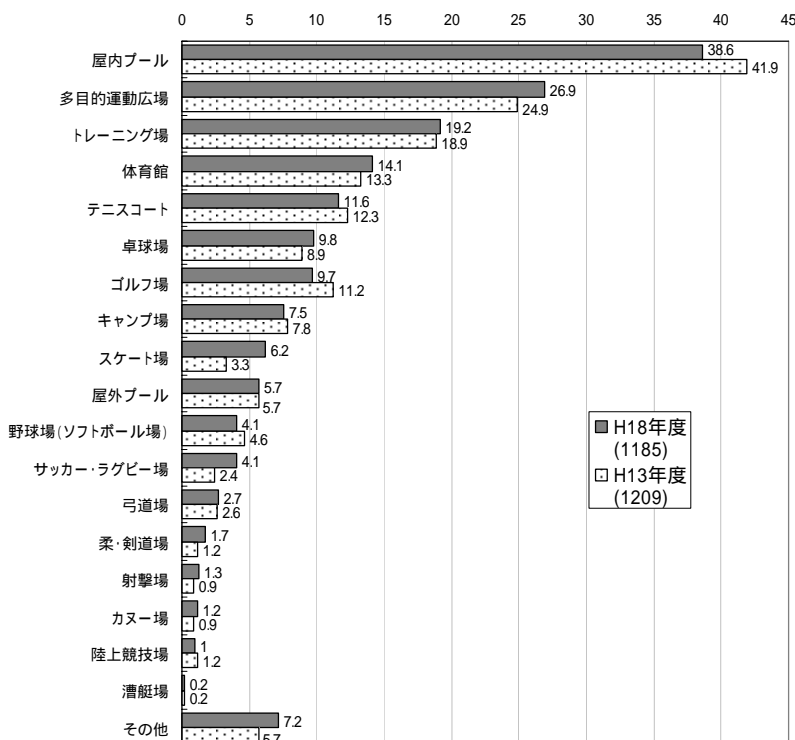


図 14 今後設置を希望する公共スポーツ施設

今後設置を希望する公共スポーツ施設(図14)については、前回調査同様、「屋内プール」が38.6%で最も多かった。以下、「多目的運動広場」(26.9%)、「トレーニング場」(19.2%)、「体育館」(14.1%)と続いている。項目ごとに比較すると、「屋内プール」が3.3ポイント前回調査を下回り、「多目的運動広場」(2.0ポイント増)と「スケート場」(2.9ポイント増)がやや上回っている。

このようにスポーツ施設に関しては、施設の設置状況は「十分整備されている」との回答が 3.3 ポイント増加し、「施設の数が少ないが、整備内容は十分」とあわせて十分と思っている人は前回調査同様 23%前後であることが分かる。また、「特にない」「分からない」の回答が約 40%となっており、あまりスポーツ施設を利用していない人がこのように考えているのではないと思われる。

公共スポーツ施設への要望については今回の調査において、前回調査項目に「駐車場の整備」を追加したため、単純に比較できないが「施設数の増加」が最も多い傾向は変わっていない。また、「利用案内など広報の充実」と「利用時間帯の拡大」が大きく減少していることから、インターネットの活用や市町村による広報の充実、各施設の利用時間の拡充などといった効果が現れてきているものと思われる。

学校体育施設の利用状況は前回調査同様 85%以上の割合で利用されていないことが分かった。さらに「利用した」の割合は 2.3 ポイント減少している。年代別でみると 40 代だけが前回調査の「利用した」を上回り、他の全ての年代では前回調査を下回っていることが分かった。

このことから、身近なスポーツ施設である学校体育施設が十分に活用されていない状況が伺える。利用しなかった主な理由として「利用できることを知らない」、「利用できる時間帯が限られている」などがあげられ、全体の傾向としては前回調査と大きな変化はみられなかった。年代別にみると 60 代・70 代以上で「利用手続きが面倒だから」が 5 ポイント以上増加していることが分かった。また、学校体育施設を「利用した」で増加していた 40 代で、「施設・設備がよくないから」が前回調査を下回る傾向が見られた。利用する機会が多くなったためこのような傾向になったと思われる。

これらの学校体育施設を有効に活用していくために、各施設の所在地や行える運動・スポーツ、利用時間帯などのさまざまな情報の発信方法等を考えていく必要があるのではないと思われる。

今後設置を希望する公共スポーツ施設として、「屋内プール」が最も多く前回調査と変わっていないが、「多目的運動広場」や「スケート場」、「サッカー・ラグビー場」で増加傾向が見られた。これらはフットサルや、フィギアスケート等のような近年、メディアなどで取り上げられる機会が多くなった種目の影響によるものと考えられる。

#### 4 運動・スポーツ関連情報について

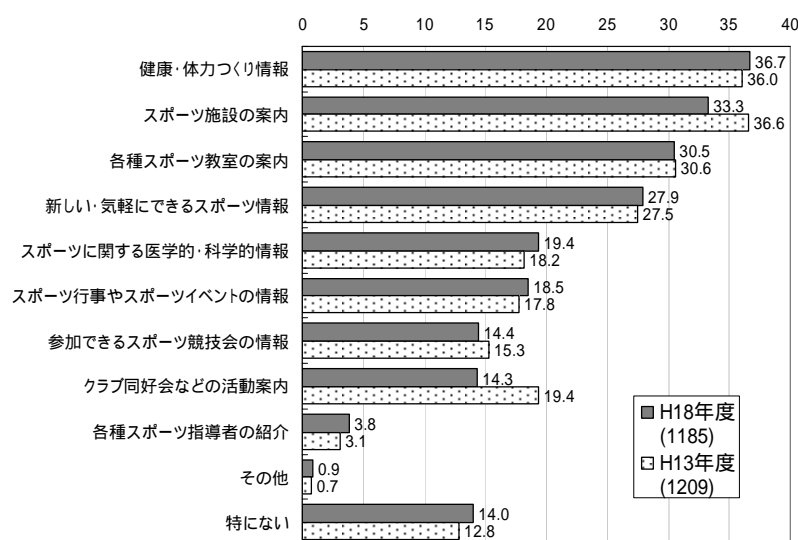


図 15-1 運動・スポーツ関連情報ニーズ

運動やスポーツに関連情報ニーズ(図 15-1)については、前回調査との比較では「健康・体力づくり情報」と「スポーツ施設の案内」の上位 2 つが入れ替わっていることが分かる。その他の項目では、「クラブ同好会などの活動案内」が前回調査を 5.1 ポイント下回っている以外は、大きな変化は見られなかった。

これら特徴のあった項目を年代別にみると、「健康・体力づくり情報」(図 15-2)では 70 代以上で 9.3 ポイント前回調査を上回っている。他の年代では下回る傾向が伺える。

「スポーツ施設の案内」(図 15-3)では 70 代以上で 8.8 ポイント前回調査を上回っているが、他の年代では前回調査と同じか減少している。特に 20 代・30 代では 5 ポイント以上減少している。



「スポーツに関する医学的・科学的情報」(図 15-4)は全ての年代で前回調査と比較するとほとんど変化がみられないが 20 代・60 代・70 代以上で 4 ポイント前後、前回調査を上回っている。

「クラブ同好会などの活動案内」(図 15-5)は 70 代以上で 1.8 ポイント微増しているが、他の全ての年代で前回調査を下回る傾向が見られ、特に 20 代～40 代で 8 ポイント前後下回るなど大きく減少している。

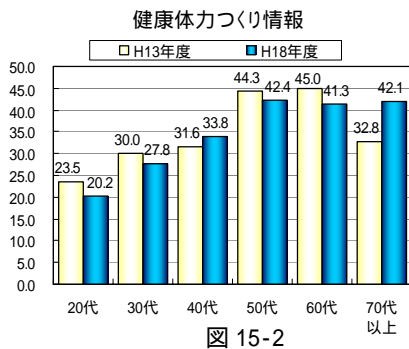


図 15-2

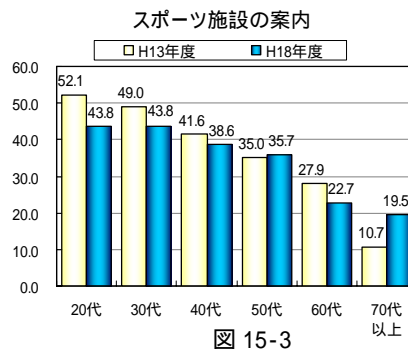


図 15-3

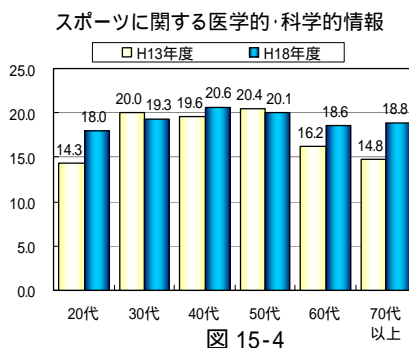


図 15-4

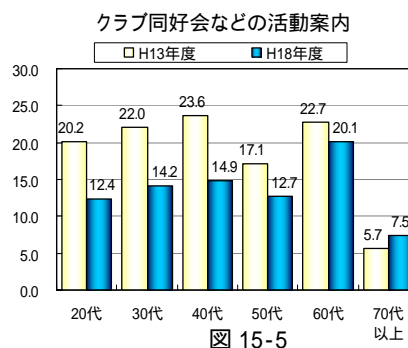


図 15-5

これらのことから運動やスポーツに関する情報ニーズとして「健康・体力づくり情報」と「スポーツ施設の案内」の上位 2 つが入れ替わり「健康・体力づくり情報」が最も高くなった。その背景として、自らの健康・体力の維持増進に対する関心が向上したためと考えられる。それと関連して「スポーツに関する医学的・科学的情報」も増加したと考えられる。

また、「スポーツ施設の案内」が減少した背景としては、インターネットなどの情報端末の普及などによる、広報の充実による効果が出ていると考えられる。特に、前回調査で 40% 以上の高い数値を示していた 20 代～40 代が減少する傾向が見られ、これらの情報端末をよく利用する世代が現状である程度満足していることが伺える。

## 5 運動・スポーツクラブについて

### (1) 運動・スポーツクラブ等への加入状況

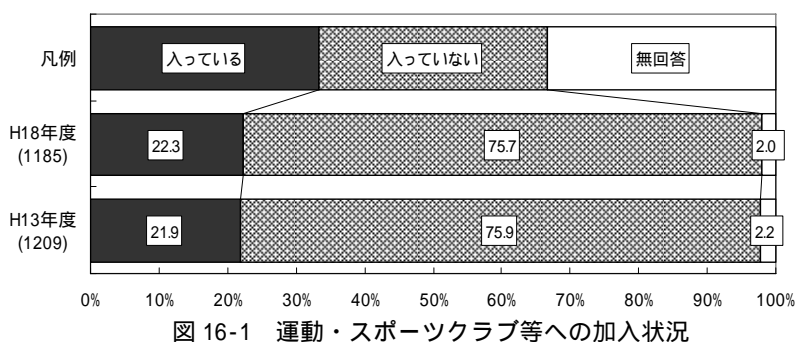


図 16-1 運動・スポーツクラブ等への加入状況

運動やスポーツクラブ・同好会への加入状況(図 16-1)については、「入っている」が 22.3%、「入っていない」が 75.7%であった。

前回調査と比較しても、結果に大きな差はみられなかった。

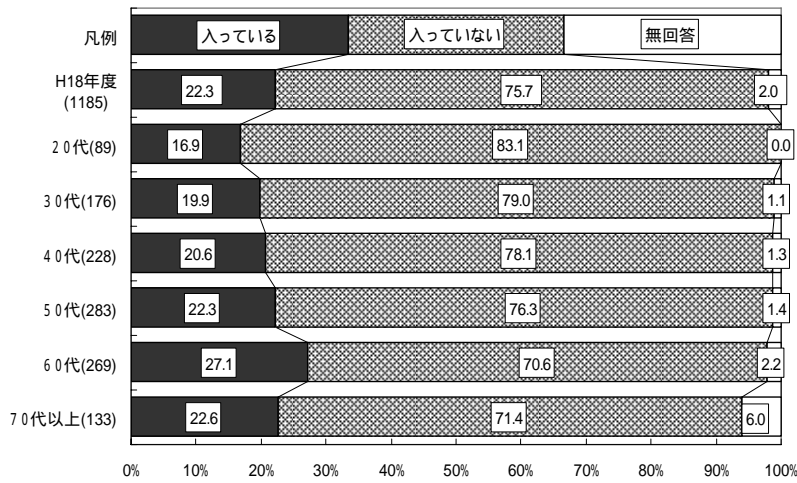


図 16-2 運動・スポーツクラブ等への加入状況(平成 18 年度：年代別)

年代別(図 16-2、3)で見ると「加入している」が 20 代・30 代 60 代 70 代以上で増加傾向が見られ、40 代 50 代では減少している。特に 40 代で 5.8 ポイント前回調査を減少し、60 代で 4.4 ポイント増加している。

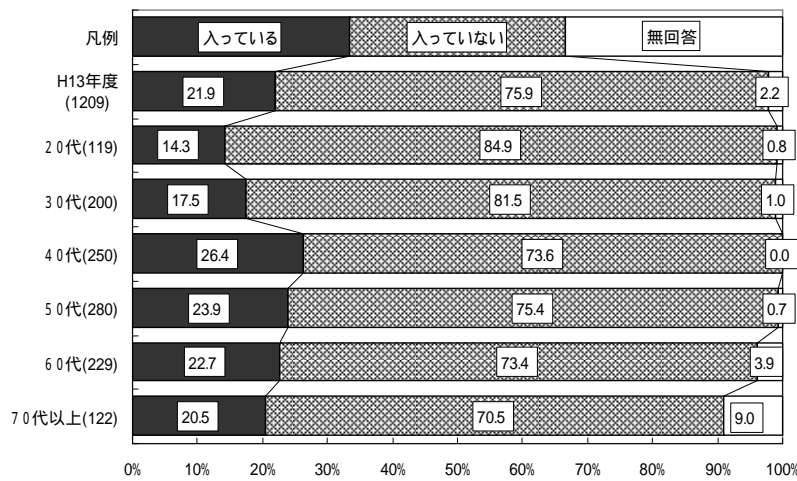


図 16-3 運動・スポーツクラブ等への加入状況(平成 13 年度：年代別)

## (2) 加入している運動・スポーツクラブ等

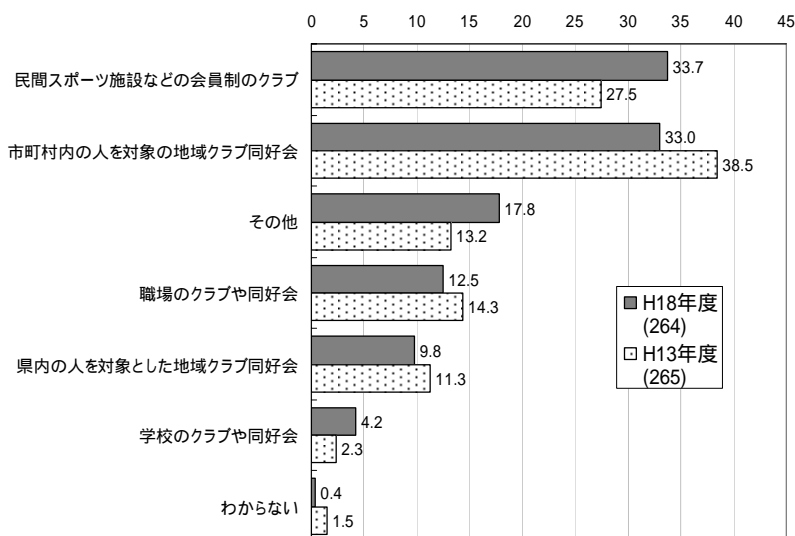


図 17-1 加入している運動・スポーツクラブ等

加入している運動・スポーツクラブ等(図 17-1)については、「民間スポーツ施設などの会員制のクラブ」が前回調査から 6.2 ポイント増加し、「市町村内の人を対象とした地域クラブや同好会」が 5.5 ポイント減少し、前回調査から順位が入れ替わっている。

これら特徴のあった項目を年代別にみると、「民間スポーツ施設などの会員制のクラブ」(図 17-2)では 20 代が前回調査を 29.1 ポイント上回り 2 倍以上となっている。また、60 代でも 16.6 ポイントと大幅な増加がみられた。70 代以上では 13 ポイント減少している。

「市町村内の人を対象とした地域クラブや同好会」(図 17-3)では 20 代で 0%になるなど 60 代をのぞいて各年代で 5 ポイント～17 ポイント前回調査を下回っていることが分かる。

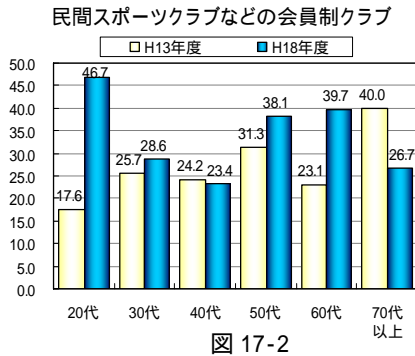


図 17-2

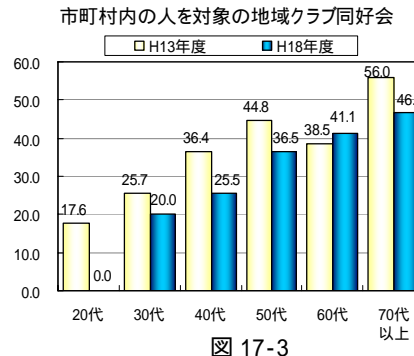


図 17-3

### (3) 運動・スポーツクラブ等への加入目的

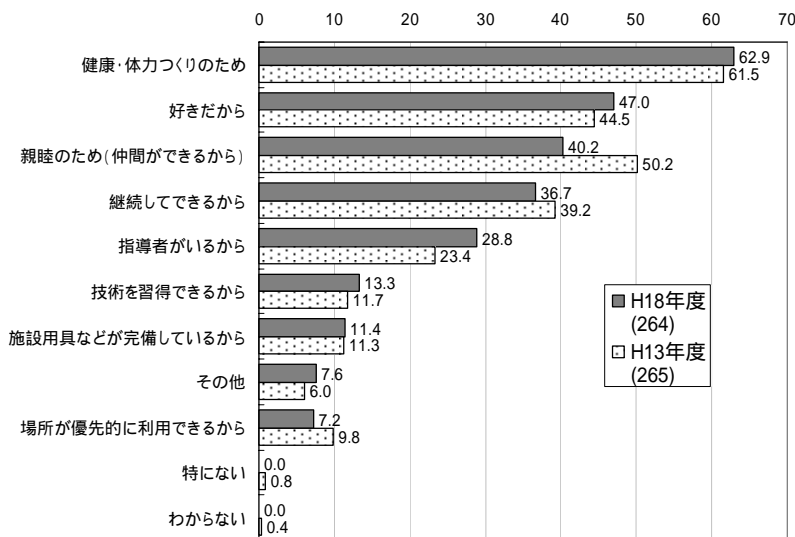


図 18-1 運動・スポーツクラブ等への加入目的

運動・スポーツクラブ等への加入目的(図 18-1)については、前回調査同様「健康・体力づくりのため」が最も多い。その他の項目を比較すると、「好きだから」(2.5 ポイント増)と「指導者がいるから」(5.4 ポイント増)ではそれぞれ前回調査を上回った。一方「親睦のため(仲間ができるから)」では前回調査から 10.0 ポイント減少し、「継続してできるから」(2.5 ポイント減)も前回調査との比較で下回っていることが分かる。

これら特徴のあった項目を年代別にみると、「健康・体力づくりのため」(図 18-2)では 20 代～40 代で減少傾向にあり、30 代で大きく減少している。50 代～70 代以上では増加傾向で、特に 70 代以上で大きく増加している。また年代が上がっていくにつれて増加していく傾向があることも分かった。

「好きだから」(図 18-3)では 20 代～50 代で増加傾向にあり、特に 20 代では大きく増加しているが、60 代～70 代以上では減少している。

「指導者がいるから」(図 18-4)では 20 代のみ前回調査を大きく下回り、他の 30 代～70 代以上では前回調査と同様か上回っている。特に 60 代・70 代以上では大きく上回っている。

「親睦のため(仲間ができるから)」(図 18-5)では 20 代のみ前回調査を上回り、他の 30 代～70 代以上では前回調査を下回っている。特に 40 代・60 代・70 代以上で大きく下回っている。

「継続してできるから」(図 18-6)では 60 代のみ前回調査を上回り、他の 20 代～50 代および 70 代以上では前回調査を下回っている。特に 20 代・70 代以上で大きく下回っている。

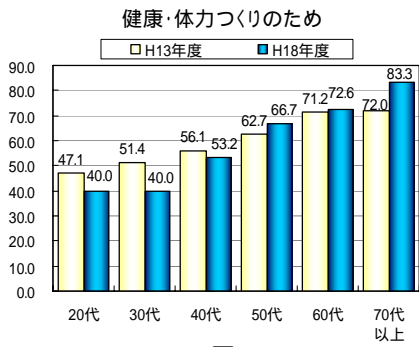


図 18-2

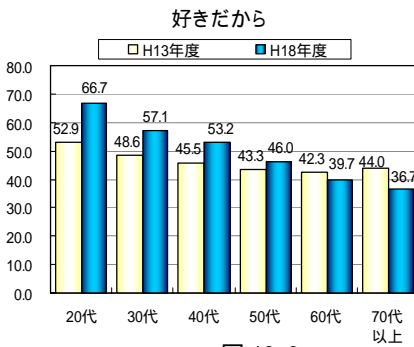


図 18-3

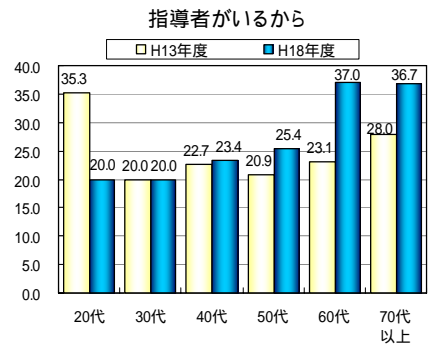


図 18-4

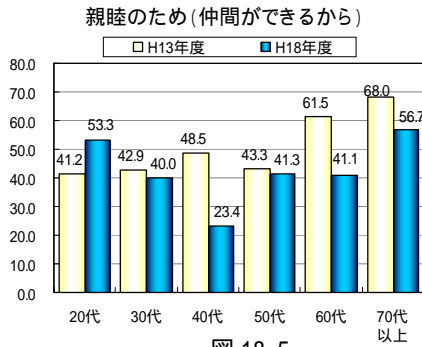


図 18-5

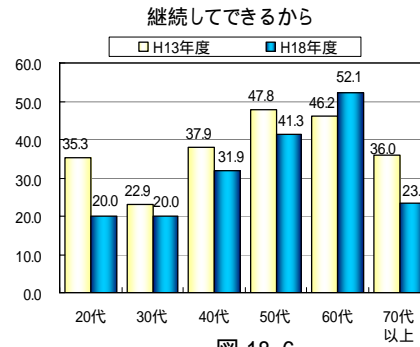


図 18-6

(4) 現非加入者の今後の加入意向

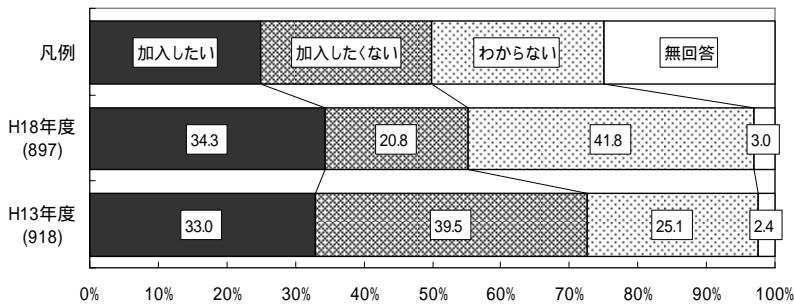


図 19-1 現非加入者の今後の加入意向

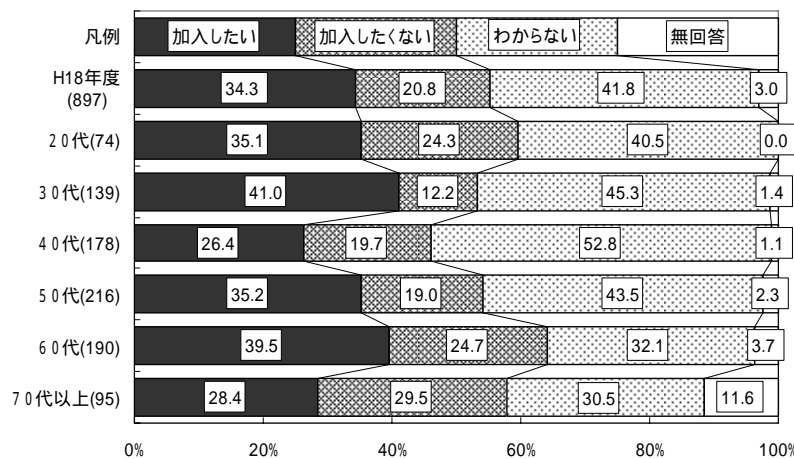


図 19-2 現非加入者の今後の加入意向(平成 18 年度：年代別)

運動・スポーツクラブ等への非加入者の今後の加入意向(図 19-1)については、「加入したい」が 34.3%、「加入したくない」が 20.8%であった。なお、「わからない」は 41.8%となっており、前回調査と比較すると、「加入したくない」が 18.7 ポイント減少し、「わからない」が 16.7 ポイント増加していることが分かる。

年代別(図 19-2、3)で見ると 70代で「加入したい」が 17.9 ポイントと大幅に増加し、「加入したくない」は全ての年代で減少している。

特に 30代～50代で 20 ポイント以上、20代・60代で 10 ポイント以上の大幅な減少がみられた。「わからない」では 20代～60代で 10 ポイント以上の増加がみられ、30代・40代は 20 ポイント以上の増加で

あった。

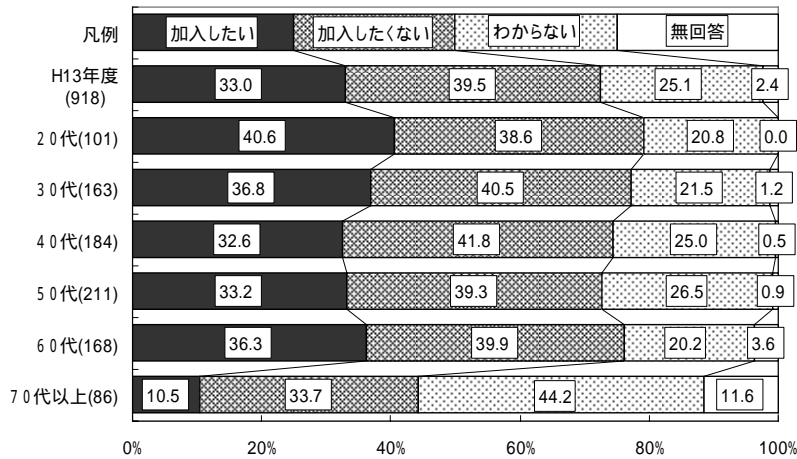


図 19-3 現非加入者の今後の加入意向(平成 18 年度：年代別)

(5) 加入したい運動・スポーツクラブ等

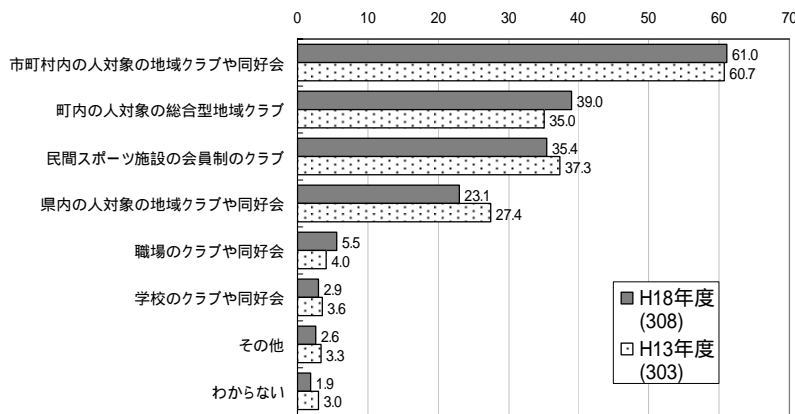


図 20-1 加入したい運動・スポーツクラブ等

現在、運動・スポーツクラブに加入していないと回答した人の今後加入したい運動・スポーツクラブ等(図 20-1)については、前回調査と同様「市町村内の人を対象とした地域クラブや同好会」が約 60%で群を抜いている。その他の項目では「町内の人を対象とした、多様目・多世代型の総合型地域スポーツクラブ」で前回調査を 4.0 ポイント上回っていることが分かる。

これら特徴のあった項目を年代別にみると、「市町村内の人を対象とした地域クラブや同好会」(図 20-2)では 50 代・60 代で増加しているものの、20 代～40 代と 70 代以上で減少傾向にあり 40 代と 70 代以上では 10 ポイント以上減少している。

「町内の人を対象とした、多様目・多世代型の総合型地域スポーツクラブ」(図 20-3)では 30 代及び 50 代～70 代以上で増加傾向が見られ、30 代・50 代で 10 ポイント前後の増加がみられたが、20 代では 20 ポイント以上の大きな減少傾向が見られた。

「民間スポーツ施設などの会員制のクラブ」(図 20-4)では 20 代と 40 代で 10 ポイント以上大きく減少し、40 代で 10 ポイント以上の大きな増加がみられた。

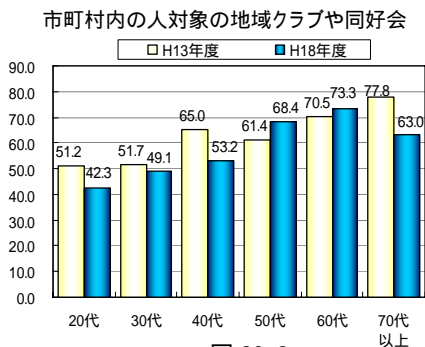


図 20-2

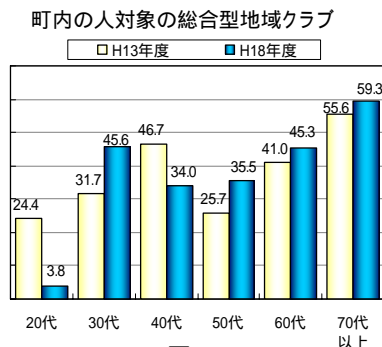


図 20-3

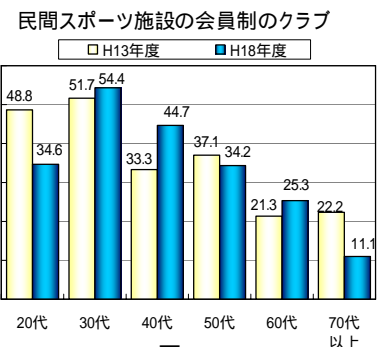


図 20-4

これらのことから、スポーツクラブや同好会などへの加入状況は20%前後で前回調査とほぼ変わっていないことがわかる。年代別にみると、40代・50代では減少傾向が見られ、それ以外の全ての年代で増加傾向が見られた。

加入しているクラブ・同好会については、「民間スポーツ施設などの会員制のクラブ」が前回調査から6.2ポイント増加し、特に20代と60代で大幅に増加し50代でも増加している。これらはまだ活力旺盛で比較的自分の時間のある20代と、自らの健康や体力維持に関心の高まる50代・60代が、豊富な運動メニューと充実したトレーニング設備や交通の利便性などを備えた施設で、自らの健康体力の維持増進などをはかるために加入が増加したと思われる。また、「市町村内の人を対象とした地域クラブや同好会」が5.5ポイント減少し、20代で0%になるなど60代をのぞいた全ての年代で5ポイント~17ポイント前回調査を下回っている傾向が見られた。市町村内の人を対象とした地域クラブや同好会への関心が若い世代で薄れている傾向が伺える。これらの背景には、その時々々のニーズにあった種目をすぐに取り入れるといった柔軟性や、個人を対象とした気軽に行えるスポーツをしたいというニーズに対応しているか、ということが要因として考えられる。

加入目的については「健康・体力づくりのため」がもっとも高い数値を示し前回調査よりやや増加している。年代が上がっていくにつれ、増加していく傾向は前回調査よりもはっきりとしている。また、「親睦のため」では前回調査を10ポイント下回るといったことから、個人の健康体力を維持増進するために加入する傾向があることが伺える。

また、現在非加入者の今後の加入意向は、全体で加入したくないが18.7ポイント減少し、分からないが16.7ポイント増加している。加入したいも1.3ポイント増加するといったところから、なんらかのきっかけがあれば加入する可能性が高い人が増加しているものと推測される。

現在、運動・スポーツクラブに加入していないと回答した人の今後加入したい運動・スポーツクラブとしては、全体として「民間スポーツ施設などの会員制のクラブ」よりも「市町村や町内」といった、地域に密着した運動・スポーツクラブに加入したいという傾向が見られるが、年代別で見ると、20代における「町内の人を対象とした、多種目・多世代型の総合型地域スポーツクラブ」に対する加入意向が20ポイント以上大幅に減少している傾向が見られた。

## 6 スポーツ振興について

### (1) 地域のスポーツ振興に期待する効果

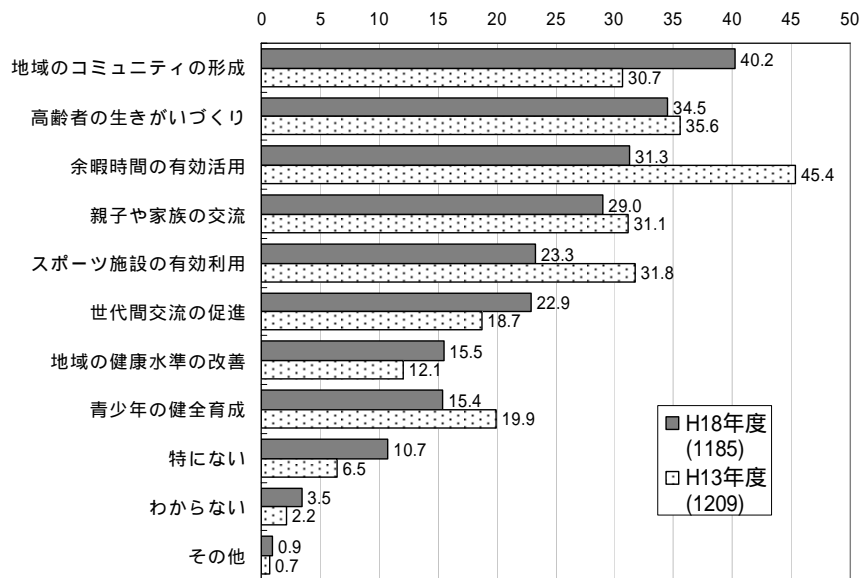


図 21-1 地域のスポーツ振興に期待する効果

地域のスポーツ振興に期待する効果(図 21-1)については、今回調査で「地域コミュニティの形成」(40.2%)が最も多く、次いで「高齢者の生きがいづくり」(34.5%)、「余暇時間の有効活用」(31.3%)が多くなっている。

項目ごとに比較すると、前回調査を上回ったのは「地域のコミュニティ形成」(9.5ポイント増)や「世代間交流の促進」(4.2ポイント増)、「地域の健康水準の改善」(3.4ポイント増)で、前回最も多かった「余暇時間の有効活用」(14.1ポイント減)や「スポーツ施設の有効利用」(8.5ポイント減)、「青少年の健全育成」(4.5ポイント減)で下回るなど、期待する効果が変わっていることがわかる。

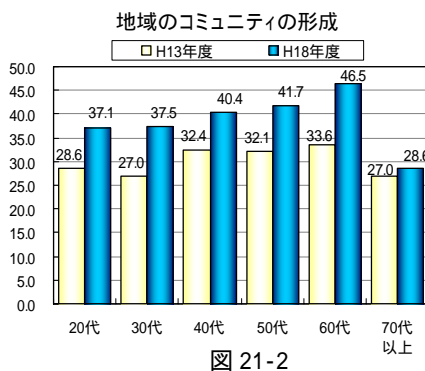


図 21-2

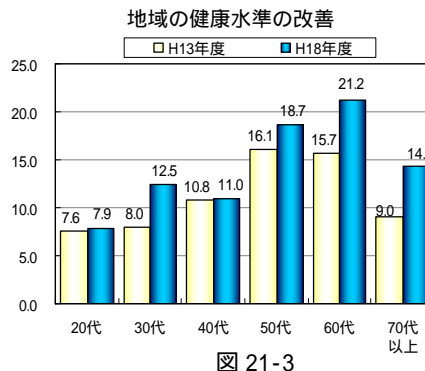


図 21-3

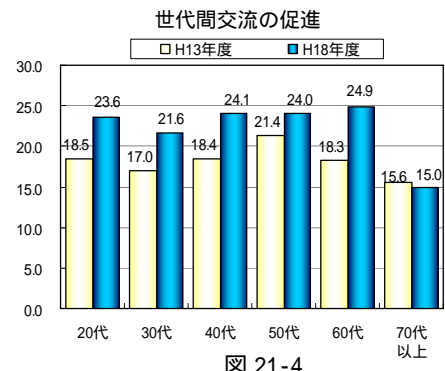


図 21-4

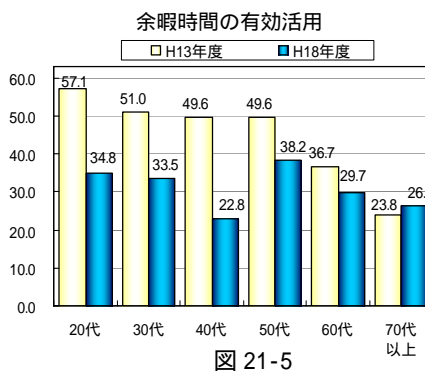


図 21-5

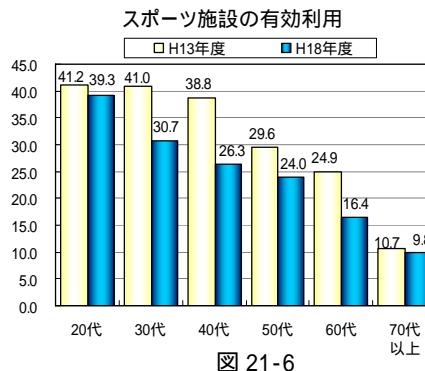


図 21-6

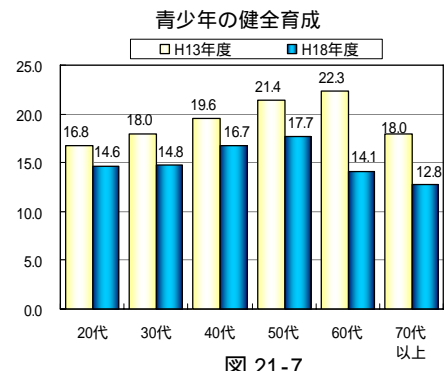


図 21-7

これら特徴のあった項目を年代別にみると、まず全体比較で前回調査を上回った「地域のコミュニティ形成」(図 21 - 2)や「地域の健康水準の改善」(図 21 - 3)、「世代間交流の促進」(図 21 - 4)は、ほとんどの年代で増加する傾向が見られた。「地域のコミュニティ形成」では20代~60代で8ポイント以上の増加がみられ、「世代間交流の促進」では20代~60代で2~6ポイント増加している。「地域の健康水準の改善」では30代と60代、70代以上で5ポイント前後上回っている。

次に全体比較で前回調査を下回った「余暇時間の有効活用」(図 21 - 5)や「スポーツ施設の有効利用」(図 21 - 6)、「青少年の健全育成」(図 21 - 7)は、ほとんどの年代で減少する傾向が見られた。「余暇時間の有効活用」は20代~40代で15ポイント以上、50代で11.4ポイント、60代で7ポイント減少していた。「スポーツ施設の有効利用」では30代・40代で10ポイント以上、50代60代で5ポイント以上の減少がみられた。「青少年の健全育成」では2~8ポイントの幅で全ての年代で減少する傾向が見られた。

## (2) 県・市町村の取り組みへの要望

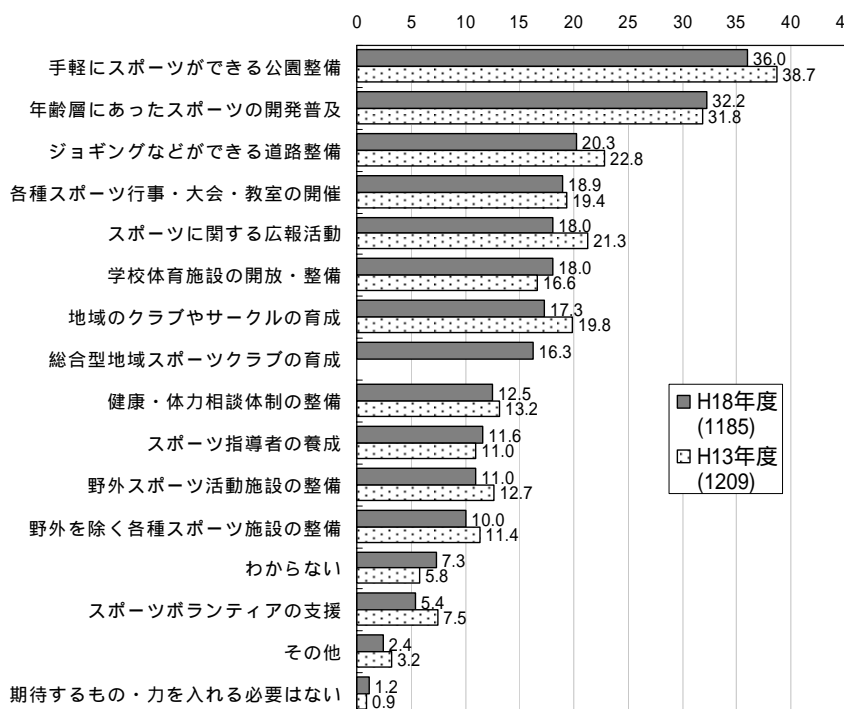


図 22-1 県・市町村の取り組みへの要望

スポーツ振興を図るための、県や市町村の今後の取り組みへの要望(図 22-1)については、前回調査同様「手軽にスポーツができる公園整備」と「年齢層にあったスポーツの開発普及」が高いことがわかる。

項目ごとに比較すると、今回調査で「総合型地域スポーツクラブの育成」(16.3%)が追加されたため全体的に減少傾向にあるものの、「年齢層にあったスポーツの開発普及」と「学校体育施設の開放・整備」では前回調査をわずかに上回る傾向がみられた。また、「手軽にスポーツができる公園整備」(2.7ポイント減)や「ジョギングなどができる道路整備」(2.5ポイント減)、「スポーツに関する広報活動」(3.3ポイント減)などで前回調査を2ポイント以上下回っている。



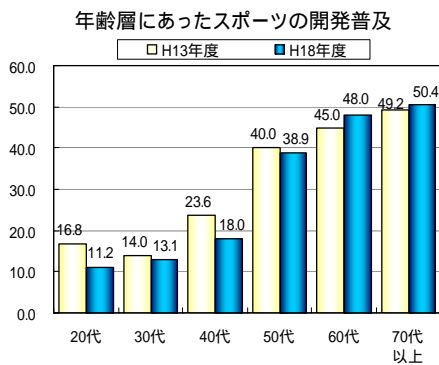


図 22-2

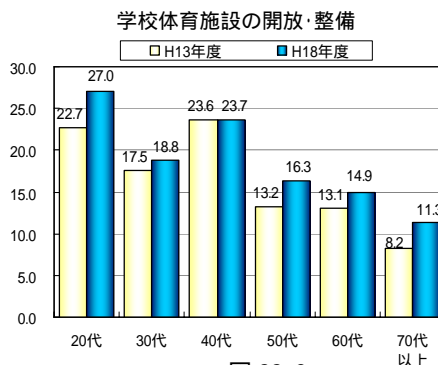


図 22-3

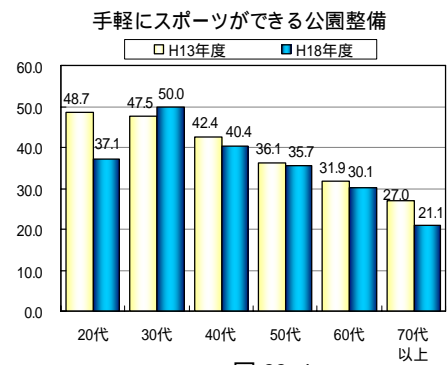


図 22-4

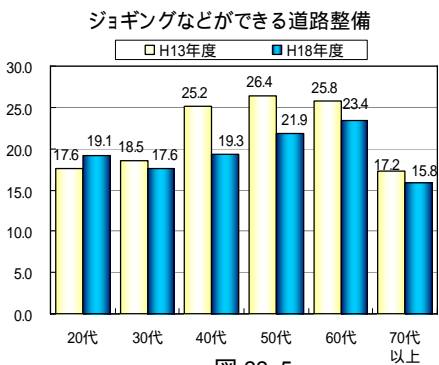


図 22-5

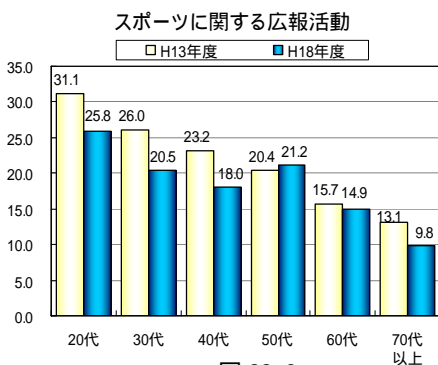


図 22-6

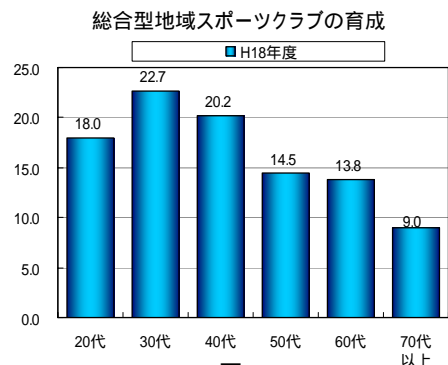


図 22-7

特徴のあった項目を年代別にみると、全体で微増していた「年齢層にあったスポーツの開発普及」（図 22-2）では 20 代と 40 代で 5.6 ポイント減少していた。また、50 代から全体の数値が増加する傾向は前回調査と同じである。

「学校体育施設の開放・整備」（図 22-3）では全ての年代で増加する傾向が見られ、「手軽にスポーツができる公園整備」（図 22-4）では 20 代で 11.6 ポイント、70 代以上で 5.9 ポイント減少していた。

また、「ジョギングなどができる道路整備」（図 22-5）では 40 代・50 代で 5 ポイント前後減少し、「スポーツに関する広報活動」（図 22-6）では 20 代～40 代で約 5 ポイント減少していた。

なお、今回追加された項目である「総合型地域スポーツクラブの育成」（図 22-7）では 30 代・40 代で 20% 以上を示していた。

これらのことから、地域のスポーツ振興に期待する効果として「地域のコミュニティ形成」や「世代間交流の促進」、「地域の健康水準の改善」といった、地域に係わる項目が全体・年代別でも増加傾向にあった。そのため前回調査で高い数値を示した、余暇時間の有効活用やスポーツ施設の有効活用などの数値は大きく下回る傾向であった。「地域のコミュニティ形成」では 20 代～60 代で 8 ポイント以上の増加がみられた。

県・市町村の取り組みへの要望としては、今回「総合型地域スポーツクラブ」の育成の項目が入ったため、ほとんどの項目で減少傾向にあるなか、「学校体育施設の開放・整備」および「年齢層にあったスポーツの開発普及」でやや増加傾向にあった。「年齢層にあったスポーツの開発普及」では自分たちの年代層にあったスポーツの普及・開発を望んでいるものと推察される。特に 50 代以上で数値が高くなる傾向は前回調査と同じであった。また、今回の調査で加わった項目である「総合型地域スポーツクラブの育成」に関しては、20 代～40 代の世代で数値が高くなる傾向が見られた。

## 【まとめ】

### 1 健康観・体力観について

「普段の健康・体力」については全体として大きな変化はみられなかったものの、20代で「大いに健康」「体力に自信」があると回答した人が、前回調査を上回る傾向が見られた。

「健康・体力維持への注意および留意点」などから、運動やスポーツが個人の健康の維持増進に必要であるという考えが各年代で、広がりつつあることが分かった。50代以上では普段から健康に注意する人が増えていることが分かった。健康・体力維持の留意点として30代～70代以上では運動習慣の意識、20代では生活習慣の意識に関する項目が増加する傾向が見られた。

### 2 運動・スポーツの実施状況について

運動・スポーツの実施状況として、「週に1回以上運動を行った人」は39.7%で前回調査と比較して2.6ポイントとやや上回っていた。年代別にみると、30代で減少し他の全ての年代は増加する傾向が見られた。

「週に1回以上運動を行った人」を20代～40代と50代以上の2つのグループに分けてみると、20代～40代では前回調査と変化がなく、50代以上では3ポイント増加しやや前回調査を上回る傾向が見られた。50代以上の増加が全体の増加につながったと考えられる。

「週に1回以上運動を行った人」を今回の調査と全国の調査(平成18年度)で比較すると、全国の調査は44.4%であり、神奈川県は4.7ポイント下回っていることが分かった。

「運動やスポーツをした理由」として健康や体力維持を目的とした項目で、前回調査を上回る傾向が見られ、特に50代以上で数値が高く、前回調査を上回る傾向が見られた。

運動やスポーツができない理由として、仕事(家事・育児含む)を持ちながら行うことが難しいという状況は、前回調査と変わっていない。

今後(も)行いたいスポーツとして、「ウォーキング」や「エアロビックダンス・ヨガ等」といった個人を対象とした比較的手軽で簡単に一人でもできる種目で前回調査より増加する傾向が見られた。

競技的スポーツではほとんどの種目で増加する傾向が見られ、自らの実力を試す場を求め人が多くなっていると考えられる。

### 3 スポーツ施設について

公共スポーツ施設への要望では「施設数の増加」が最も高い数値を示す傾向は変わらない。しかし、「利用案内など広報の充実」と「利用時間帯の拡大」が大きく減少していることから、インターネットの活用や市町村の広報の充実、各施設の利用時間の拡充などといった効果が現れてきているものと思われる。

今後、設置を希望する公共スポーツ施設として「屋内プール」が前回同様最も多いが、「多目的運動広場」や「スケート場」、「サッカー・ラグビー場」で増加傾向が見られた。

学校体育施設の利用状況としては、「利用していない」が85%以上と前回調査とほとんど変わらなかった。身近なスポーツ施設である学校体育施設が、まだ十分に活用されていない状況が伺える。

学校体育施設を利用しなかった理由として「利用できることを知らなかった」「利用手続きが面倒だから」などといった利用状況にかかわることが多くみられた。

### 4 運動・スポーツ関連情報について

運動・スポーツ関連情報ニーズとしては「健康・体力づくり情報」が最も高くなり、「スポーツに関する医学的・科学的情報」が前回調査より増加したことから、自らの健康・体力の維持増進に対する関心が向上していると推察される。特に50代以上でこれらの項目で数値が高く、前回調査を上回る傾向みられた。

## 5 運動・スポーツクラブ

運動・スポーツクラブの加入状況については、全体として大きな変化はみられなかった。現在非加入者の今後の加入意向については、なんらかのきっかけがあれば加入する可能性が高い人が増加していることが分かった。

加入目的としては「健康・体力づくりのため」が前回調査同様最も高く、増加傾向が見られ、特に50代以上で数値が高く前回調査を上回る傾向が見られた。

加入しているクラブでは「民間スポーツ施設などの会員制のクラブ」が前回調査を上回り、「市町村内の人を対象とした地域クラブや同好会」への加入が前回調査を下回り最上位が入れ替わっている。特に20代では前者が大幅に増加し、後者が0%に減少するといった大きな変化がみられた。

現在、運動・スポーツクラブに加入していない人が今後加入したい運動・スポーツクラブとしては地域の運動・スポーツクラブに加入したいという傾向が見られた。年代別でみると30代から年代が上がるにつれて、数値が高くなる傾向は前回調査と変わらない。20代では「町内の人対象の総合型地域クラブ」が20ポイント以上大きく下回る傾向が見られた。

## 6 スポーツ振興について

地域のスポーツ振興に期待する効果として「地域のコミュニティ形成」が最も高いという傾向から、今日的な課題である地域におけるコミュニケーションの希薄化などを解決する手段の一つとして運動やスポーツの振興が期待されていると思われる。

県・市町村の取り組みへの要望としては、「学校体育施設の開放・整備」でやや増加傾向にあり、全ての年代で前回調査を上回った。同様にやや増加傾向のあった「年齢層にあったスポーツの開発普及」では、50代以上で数値が高くなる傾向は前回調査と同じであった。

### 【今後に向けて】

- 1 国や県の施策として、成人の週に1回以上の運動・スポーツ実施率を50%以上にする目標が掲げられている中で、今回の調査では50代以上の中高齢者ではその数値に近づいていると考えられるが、20代~40代ではそれをかなり下回り、二極化する傾向が見られた。20代~40代で仕事（育児・家事含む）を持ちながら運動やスポーツを行うことが難しい状況ある中で、県が推進している3033運動（一人でも多くスポーツに親しみ、健康で明るく豊かな生活を営んでいただくために、1日30分、週3回、3ヶ月継続して運動やスポーツを行い、運動やスポーツをくらしの一部として習慣化する運動）の趣旨を生かした日頃の生活や職場の行間等でできる運動実践の普及・啓発をさらに進めていく必要がある。さらに、地域のクラブなどと連携した、夜間に運動ができる場の設定・支援なども考えられる。
- 2 健康・体力維持のために運動・スポーツを行うという意識を持つ人が増える傾向にあり、各年代で健康・体力づくりのニーズが高まっていることから、それぞれの年代に応じた県民一人ひとりの健康・体力づくりをサポートする情報や各年代に対応したプログラムを提供していくことが必要である。
- 3 学校体育施設が身近な運動・スポーツの施設としてその利用促進が進められている中で、「利用できることを知らない」、「利用できる時間帯が限られている」、「利用手続きが面倒だから」といった利用に関わる問題で前回調査を上回る傾向が見られた。これに対し、行政側の支援として各学校の施設で行える運動・スポーツ、利用時間帯などのさまざまな情報提供の仕方をより充実させていくことと、他の機関との連携も考えながら提示していくことが必要であると考えられる。

- 4 今後、運動・スポーツクラブに加入したいもしくはきっかけがあれば加入したいと考えている人たちが増える傾向にあり、その受け皿として総合型地域スポーツクラブの育成が急務であると思われる。そして、その育成支援を進めていくために、今回調査で年代によっては総合型地域スポーツクラブへの関心・魅力が低くなる傾向が見られたことから、広く関心を高め、魅力あるクラブにしていくための支援や、クラブ相互の連携を促進しお互いに協働することでよりよいクラブ運営を継続できるような仕組みをつくり、一層の普及・定着を図ることで、運動・スポーツクラブへの加入を促進するきっかけにすることができると思われる。

今回の調査から各年代で運動・スポーツに関するニーズが変化していることから、各年代のニーズに応じた運動・スポーツを各市町村・または地域のどこでどのように実施しているのか、またどのような運動・スポーツを提供していけばよいのかといった情報提供や、各年代に対応できる運動やスポーツのプログラムを作成し提供・支援していくことが有効であると考えられる。

さらに学校教育活動との連携も課題であり、学校という地域に根ざした場を使うことにより、子どもの時から慣れ親しんだ場で、各年代のニーズにあった運動・スポーツなどを多世代で取り組めるよう提供していくことが必要である

- 5 運動・スポーツ情報の提供は、インターネットなどの情報端末の普及によりかなり充実したものとなってきているが、中高齢者のインターネット利用率は20代~40代と比較すると、まだ低い傾向にあると思われる。そのため、このような情報端末だけに頼るのではなく、地域の回覧板など、地域に根ざした情報提供の活用・促進が求められる。

#### 【おわりに】

今回、平成13年度と平成18年度の調査結果の比較を行い、特徴のあった項目や課題を年代別に比較してきた。全体としては大きな変化はあまりみられなかったものの、年代別にみっていくと大きな変化のある項目もみられた。特に、成人の週に1回以上の運動・スポーツ実施率の傾向で明らかになったように20代~40代のグループと50代以上のグループ分けられる傾向が多く項目で見られた。成人を対象とした運動・スポーツ振興を図っていく上でこのグループ分けをすることで現状の分析を行っていくことが有効であると思われる。このように今後、年代別の分析をさらに行うことにより、ライフステージに応じた傾向やニーズが浮き彫りにされより具体的な傾向や課題を明確にしていく必要がある。

#### 【参考文献】

- 1) 体力・スポーツに関する世論調査(内閣府,2006,2004,2000)
- 2) S S Fスポーツライフに関する調査(笹川スポーツ財団,2005)
- 3) アクティブかながわ・スポーツビジョン(神奈川県・神奈川県教育委員会,2004)
- 4) スポーツ振興基本計画(文部科学省,2006)
- 5) 21世紀のウェブ生涯スポーツ2007(文部科学省,2007)
- 6) 通信利用動向調査(総務省,2006)